

令和4年12月16日

1. 出席議員

1 番	西	一郎	9 番	中村	一堯
2 番	宮崎	幸宏	11 番	伊東	茂
3 番	笠継	健吾	12 番	徳村	博紀
4 番	中村	日出代	13 番	福井	正
5 番	池田	廣志	14 番	松尾	征子
6 番	杉原	元博	15 番	松田	義太
7 番	樋口	作二	16 番	角田	一美
8 番	中村	和典			

2. 欠席議員

10 番 勝屋 弘貞

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	染川	康輔
事務局長補佐	樋口	貴司
議事管理係長	富岡	明美

#### 4. 地方自治法第121条により出席した者

市	長	松	尾	勝	利
副	市長	藤	田	洋	一郎
教	育	中	村	和	彦
総	務	田	崎		靖
総務部理事兼選挙管理委員会事務局長		川	原	逸	生
市民部長兼福祉事務所長兼税務課長		岩	下	善	孝
産	業	山	崎	公	和
建	設	山	浦	康	則
環境部	長	白	仁	田	和
総務課長兼選挙管理委員会事務局参事		山	口	徹	也
企	画	村	田	秀	哲
財	政	広	瀬	義	樹
課	長	中	村	祐	介
保	險	山	口		洋
健	康	江	島	裕	臣
課	長	田	中	宏	幸
福	祉	橋	川	宜	明
課	長	中	野		将
商	工	田	代		章
観	光	江	頭	憲	和
課	長	嶋	江	克	彰
農	林				
水	産				
課	長				
農	業				
委	員				
会	事				
務	局				
長					
都	市				
建	設				
課	長				
都	市				
建	設				
課	参				
事					
環	境				
下	水				
道	課				
兼	ラ				
ム	サ				
ー	ル				
条	約				
推	進				
室	長				
教	育				
次	長				
兼	教				
育	総				
務	課				
長					
生	涯				
学	習				
課	長				
兼	中				
央	公				
民	館				
長					

令和4年12月16日（金）議事日程

開議（午前10時）

日程第1 一般質問（通告順による）

鹿島市議会令和4年12月定例会一般質問通告書

順番	議員名	質問要旨
10	15 松田 義太	1. 「SAGA2024」国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会について (1)現在の準備状況について (2)今後の事務局体制について (3)スポーツ環境の整備について（中学生・高校生） (4)SAGA2024における観光戦略について  2. 有明海の再生について (1)今期のノリの状況について (2)サルボウ貝放流等の取り組み状況について (3)今後の市の支援策について
11	2 宮崎 幸宏	1. JR肥前鹿島駅周辺整備事業に関すること (1)本事業の経緯及び概要について (2)本事業の今後の実施計画について  2. スポーツ振興による地域活性化に関すること (1)SAGA2024国スポ等に向けた地元選手の強化支援について (2)スポーツを通じたまちの活力づくりについて  3. 鹿島バイパスの豪雨に伴う冠水対策に関すること (1)過去における本冠水の経緯及び原因について (2)鹿島バイパスの沿線開発と都市排水について
12	11 伊東 茂	1. 令和5年、新年度予算編成・施策等について (1)厳しさが増す市民生活への継続支援策 (2)市内産業への本市独自の支援策（農業・漁業・商業） (3)市内活性化を促す工業団地建設の実施 (4)市内小・中学校、指定管理施設の光熱費増加への対策  2. 中心商店街の歩道の再整備の必要性 (1)スカイロード街路整備事業から25年経過による歩道の損傷 (2)鹿島駅周辺整備構想（まちなか整備）による歩行ネットワークの形成

午前10時 開議

○議長（角田一美君）

おはようございます。現在の出席議員は15名であります。定足数に達しておりますので、

ただいまから本日の会議を開きます。

## 日程第1 一般質問

### ○議長（角田一美君）

本日の日程は、配付しております議事日程どおり一般質問を行います。

通告順により順次質問を許します。15番松田義太議員。

ここで申し上げます。松田義太議員の一般質問で議場モニター映像の使用を許可します。

### ○15番（松田義太君）

皆さんおはようございます。15番議員の松田義太でございます。通告に従いまして一般質問をいたします。

今回私は、1点目にSAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について、2点目に有明海再生に向けた取組についてという2つの表題を掲げ、鹿島市が直面している政策課題について質問をいたします。御答弁よろしく願いいたします。

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会は、国内最大規模のスポーツの祭典であり、全国から多くの選手や関係者が佐賀に集まります。これは鹿島市の魅力をじかに感じていただく絶好の機会です。県外から多くの方が佐賀に滞在するこの機会を逃さず、鹿島に足を運んでいただくこと、また、鹿島の魅力を知っていただくチャンスとするためには、計画的な情報発信と受入れ体制などの準備が肝要です。

また、このスポーツの祭典を成功に導くためには、関係団体や行政だけでなく、市民の大きな協力が必要になると考えられ、そのためにはいかに市民の参加意欲の高揚が図られるかということになります。市民が関係者や行政と一体となり取り組んでいくことは、スポーツ活動のさらなる普及、振興、市民の健康増進が期待されます。さらに、地域が一体となり連帯感を高めることは、新たなまちづくりにもつながると考えます。

そこでまず、国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会の開催期間中に鹿島市内で行われる競技及び日程、そして、リハーサル大会等のスケジュールが決定されていればお知らせください。

次に、有明海再生に向けた取組についてお伺いをいたします。

水産資源に恵まれ、かつて宝の海と称された有明海は、近年、生き物の多様性が失われ、二枚貝をはじめとする魚介類の激減によって、漁業者にとって大変厳しい環境になっています。とりわけ有明海南西部のノリ養殖業においては、深刻な赤潮被害や栄養塩不足等により色落ちがひどく、収穫量が例年の半分以下という、かつて経験したことのない不作になったことで経営の危機に直面をされております。これは顕著な収穫量を確保した有明海東部と比較すれば、その差は歴然としており、有明海南西部のノリ漁業者は廃業を検討せざるを得ない事態に陥っております。

まず、今期のノリ養殖の状況について説明をお願いいたします。

以上で1回目の総括的な質問といたします

なお、詳細及びその他の項目については一問一答の中でお伺いしますので、よろしくお問い合わせいたします。

**○議長（角田一美君）**

執行部の答弁を求めます。嶋江生涯学習課長。

**○生涯学習課長（嶋江克彰君）**

おはようございます。生涯学習課からはSAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について答弁いたします。

SAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会は、2年後の令和6年に、名称を国民体育大会から国民スポーツ大会へ変え、48年ぶりに佐賀県で開催される大会です。

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとすることを目的に開催するものです。また、全国障害者スポーツ大会は、障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進することを目的に開催するものでございます。

鹿島市においては、恵まれた自然や歴史、産業、文化などの地域資源を最大限に活用し、市民参加と協働により、本市の多彩なる魅力を全国に発信する大会を目指すとともに、本市の将来都市像である「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」の実現を目指して開催するものでございます。

それでは、御質問の実施競技等について申し上げます。

鹿島市で開催する競技のうち、国民スポーツ大会の正式競技がアーチェリーと軟式野球です。

アーチェリーは本大会が令和6年10月5日から7日までの3日間、リハーサル大会は令和5年7月16日から17日の2日間で実施します。場所は蟻尾山公園陸上競技場のフィールドになります。

軟式野球は本大会が令和6年10月11日と13日の2日間、リハーサル大会が令和5年5月19日から22日の4日間で実施します。場所は鹿島市民球場になります。

次に、全国障害者スポーツ大会になりますが、正式競技としてアーチェリーが実施されます。本大会は令和6年10月27日、リハーサル大会は令和5年6月9日で、場所は蟻尾山公園の陸上競技場フィールドです。

次に、公開競技になります。公開競技は競技の普及や生涯スポーツの実現を目指して実施されるもので、日本スポーツ協会の加盟団体の競技に限られます。

なお、公開競技は得点にはなりません。

公開競技は鹿島市でグラウンドゴルフが行われます。本大会は令和6年9月21日から22日の2日間、リハーサル大会は令和5年10月か11月に開催予定となっております。場所は蟻尾山公園です。

次に、デモンストレーション競技になります。デモンストレーション競技は、佐賀県民が気軽に国スポに参加できる機会を設け、世代間、地域間の交流の発展を目指して実施するものです。鹿島では、さわやかグラウンドゴルフと軽スポーツのバグジーという競技が実施されます。さわやかグラウンドゴルフの本大会は令和6年5月12日に実施、リハーサル大会はありません。場所は蟻尾山公園です。バグジーの本大会は令和6年5月19日、リハーサル大会は令和5年5月13日に、鹿島市民体育館で実施されます。

以上でございます。

**○議長（角田一美君）**

江島農林水産課長。

**○農林水産課長（江島裕臣君）**

私のほうからは、今期のノリ養殖の状況について申し上げます。

ノリ養殖につきましては、議員からもありましたように、昨年は度重なる赤潮発生の影響により深刻な色落ち被害が発生しまして、鹿島市では生産金額は980,000千円、生産枚数が9,800万枚と、近年に例を見ない記録的な不作となったところであります。

今期のノリ養殖の状況でございますけれども、時系列で申しますと、9月中旬までは有明海全域にて貧酸素が確認されておりましたが、その後、発生しました台風14号が有明海を縦断しまして、この影響もありましてか、海水が攪拌されて貧酸素も解消、さらに海水温や比重も例年並みとなって、豊作を期待させるスタートとなりました。しかしながら、10月に入りまして極端な雨不足の影響等により栄養塩の不足が確認されたことから、11月の1か月間に13回にわたって施肥が実施されたところでございます。こうした中、11月24日から摘み取りが始まりまして、同じく29日から順次、ノリの検査が始まったところであります。検査の結果、一部のノリで色落ちでありますとか芽の萎縮が確認をされましたが、芽の傷み等は特に見られず、ノリの芽つきについては例年並みであったということが確認されたところでございます。

現在の海況でございますけれども、有明水産振興センターの発表では、今週火曜日の速報では水温は平年よりやや低め、比重が平年並み、栄養塩については若干上昇傾向にはありますものの、通常5から7マイクログラム・パー・リットルが必要なわけですが、これに対して1.2、まだ低めになっております。

なお、昨日観測された速報が先ほど届きまして、水温、比重は平年並み、ただ、栄養塩の値が鹿島で0.9と、さらに低くなったという状況、悪化している状況にございます。

次に、色落ち被害の大きな原因とされます赤潮の発生でございますけれども、10月から11

月の期間に、短期間ではございますが、鹿島市沖でキートセロスという種類の赤潮が発生しましたが、これは11月末には収束が確認をされました。ただ、今週の月曜日に入って、別の種類の赤潮、ユーカンピアという種類の赤潮が白石から鹿島にかけて発生が確認されました。水産振興センターに問い合わせましたところ、この赤潮の性質として、栄養塩を吸い尽くして、一度増殖すると収束するまでに長期化する傾向があるということで、色落ちには最大の注意が必要ということでありました。

また、病気につきましては現在赤腐れ病の感染が拡大しておりまして、特に七浦地区においては重度の色落ちが発生しているところもございまして、最新の情報によりますと、当初は今月29日までに網揚げを完了するという予定でありましたけれども、このような状況を受けて早めに網を現在揚げ始められている生産者もいらっしゃいます。

このような状況の中、今年度の秋芽ノリの1回目の入札が12月9日に実施をされております。鹿島支所管内におきまして生産枚数が1,862万枚、生産金額が244,000千円、1枚当たりの平均単価が13.14円となりまして、各項目を昨年と比較いたしますと、平均単価は5.74円の減となりましたけれども、生産枚数は227%の増、生産金額も158%の増となったところがございます。

今回の初入札は、有明海全域の栄養塩不足の影響もありまして県内全体を見ましても生産枚数自体は少なく、単価も低い中でのスタートとなりましたけれども、鹿島市におきましては昨年の1.5倍から2倍と上向きでのスタートとはなりましたが、これはあくまでも記録的に悪かった昨年との比較でございまして、一昨年、令和2年の1回目の入札と比較をいたしますと、生産枚数で約3割減、生産金額で4割減となっております、依然として厳しい状況にあることは変わりございません。

今後も予断を許さぬ状況はまだ続いておりまして、海況のこうした変化でありますとか、あと、今後、今期2回目の入札が今月23日に予定をされておりますので、こうした情報についても注視してまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

ありがとうございました。それでは、一問一答で質問をさせていただきたいと思っております。

まず、SAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について質問させていただきますけど、まず、この名称が、市民の皆さん方、県民もそうですけれども、聞き慣れていないということがあると思っております。皆さん、国体ということは、これまでもスポーツとしてされてこられた方、また、普通の市民の方々も聞き慣れている言葉であると思っておりますけど、まず、この名称が浸透しているとは思えませんので、名称の浸透も含めて、今後、市民への周

知が必要になってくると思います。

その中で、先ほど答弁がありましたけれども、正式競技、公開競技、デモンストレーションスポーツということで、鹿島市においてはアーチェリー、軟式野球、グラウンドゴルフ、さわやかグラウンドゴルフ、バグギーということで答弁をいただきました。これらを今後開催するに当たり、運営体制で進めていかなければならないと思いますが、現在の事務局体制はどのようになっているのか、お伺いをしたいと思います。

**○議長（角田一美君）**

嶋江生涯学習課長。

**○生涯学習課長（嶋江克彰君）**

お答えいたします。

競技会場となる各市町の運営体制としましては、行政機関を事務局とした実行委員会を設立し、各競技会を運営していくことがこれまでの先催県での通例となっており、佐賀県内の各市町においても同様の状況でございます。

鹿島市においては今年3月にSAGA2024鹿島市実行委員会の設立総会を開催し、市をはじめとして、市内の公共機関や学校、警察、各競技団体、スポーツ関係団体、各産業団体、公共交通機関、医師会関係等々の代表の方50人が委員に就任していただいております。実行委員会の事務局は、生涯学習課内の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会推進室となります。

次に、専門委員会について申し上げます。

実行委員会の中に4つの専門委員会を設けております。専門委員会は、実行委員会の中の総会から委任された専門的事項についての調査、審議、実施を行う機関となります。

1つ目は総務・企画専門委員会です。これは広報活動、市民協働、観光、おもてなしを担当する専門委員会となります。

2つ目は競技・式典専門委員会です。これは競技会の運営、開催式典、施設整備、リハーサル大会開催を担当する専門委員会となります。

3つ目は宿泊・衛生専門委員会です。これは宿泊、医事、衛生を担当する専門委員会となります。

4つ目は輸送・交通専門委員会です。これは輸送、交通、警備、消防防災を担当する専門委員会となります。

これらの4つの専門委員会において、それぞれ担当する内容を協議していただき、準備作業を進めていくこととなります。10月に1回目の専門委員会を開催しておりますけれども、このときはそれぞれの専門委員会において基本計画や実施要綱などを承認していただいたので、次回の2回目以降は少しずつ具体的な内容の協議に入っていきたいと考えているところでございます。



以上です。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

正式競技としてアーチェリーと軟式野球、公開競技としてグラウンドゴルフ、また、デモンストレーションスポーツとしてさわやかグラウンドゴルフ、バグギーということでありまして、リハーサル大会に向けては、あと10か月ぐらいになっていると思います。その中で、各大会における運営支援のための人員は大体どのくらいを見込まれておりますか。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えします。

アーチェリーにつきましては、スタッフが数十名、高校生スタッフが必要になると思っております。

野球につきましては、約20名ほどのスタッフが必要だと思っております。

また、本大会につきましては、さらに多くの人員が必要だと考えております。

以上でございます。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

正式競技だけの答弁でありましたけれども、公開競技、デモンストレーションのスポーツ等も開催をされるわけですね。こちらのほうもリハーサル等を含めて本競技もあると思いますが、こちらのほうはどのくらいと見込まれていますか。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えします。

デモンストレーション競技と公開競技につきましては、基本的に競技団体が全てを取り仕切って開催されておりますので、行政としては後方支援といいますか、お手伝いをするような形になるんですけれども、そのときのスタッフがどれくらい必要かというのがこれからの協議で分かってくると思います。今のところはまだ何名くらい必要かというのは分かりかねるというか、まだ不明なところでございます。

以上です。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

最初の答弁から、アーチェリーが数十名、野球のほうは20名程度。これはスタッフ、また、駐車場係とか、開催するに当たりそれぞれありますよね、そういうところも含んだ数字であるのか。先ほどグラウンドゴルフやバグジーについてもその競技団体のほうでやられて、あとは後方支援をするということでありましたけれども、それで本当に足りるのか、その辺は私は非常に疑問でありますけれども、担当課としてはどのように考えておられますか。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えします。

今申し上げたのは、競技に必要な競技場内のスタッフの数を申し上げました。それ以外になりますと、駐車場整理とか、ごみ拾い、トイレの清掃、あるいは弁当の配付とか、それから、観光の案内、施設の案内、そういうものが出てきますので、さらに多くの人員が必要になりますので、そこはボランティアの募集をかけたとか、あと、実行委員会内の専門委員会の委員さんの選出母体の組織から御協力をいただくなどとして、スタッフの数をそろえていきたいと考えているところです。

以上です。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

最初に申し上げましたけれども、SAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の名称についても浸透が市民の中にされているとは思いません。

もう一つが、先ほどおっしゃったように、今後、ボランティアスタッフとかのお願いとかされるとと思いますが、今後、この大会で鹿島でどのような競技が行われるのか、それは日時も含めてですけれども、やはり市民の協力が必要不可欠だと思います。リハーサル大会まではあと10か月ぐらいになっておりますので、早め早めの周知をやっていかないと浸透はできないのかなと思います。

実行委員会等につくられているというお話でありましたので、市報、ケーブルテレビを含めて、この後はできるだけ周知の徹底をしていただいて、このような大会が鹿島であるんだというのをまず市民の皆さん方に分かっていただくことが大切だと思いますので、そのような手段を担当課としてぜひ考えていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

**○生涯学習課長（嶋江克彰君）**

お答えいたします。

広報活動につきましては大きく6点ございます。

まず1点目ですけれども、小・中学校への訪問でございます。令和3年度から今年度にかけてまして市内の小・中学校を訪問して、学校の児童・生徒の皆さんに対してSAGA2024の説明会や体験会を実施しております。これまで1,000人以上の子供たちに参加をしていただいておりまして、子供たちの反応もよくて、国スポに対しての理解も少しずつではありますが、深まってきているのではないかと感じているところでございます。また、学校以外でも、老人会などに出向いて御説明をさせていただいているところでございます。

2点目は、体験会になります。市内で開催されますイベント時に国スポのブースを設置して、アーチェリー協会やレクリエーション協会等の協力をいただきながら、子供たちをメインとした体験会を実施しているところでございます。

3点目は、のぼり旗や横断幕の作成になります。佐賀県から国スポに関する県内の掲示物は統一したデザインを掲載するようにとの指導がっております。そのデザインが11月に示されましたので、のぼり旗や横断幕等を早期に作成し、市内各所に設置したいと考えております。

4点目は、啓発グッズになります。オリジナルのボールペンやティッシュ、クリアファイル等の配布を小学校訪問時等に行っております。

5点目は、先ほど議員からもありましたが、「広報かしま」、それから、市のホームページ、SNS等を活用した広報を今後展開していきたいと思っております。

6点目が、ケーブルテレビの御協力をいただいて市民への周知ができればと考えております。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

15番松田義太議員。

**○15番（松田義太君）**

開催に向けては2年後でありますけれども、リハーサル等を含めれば、もう1年もないというところであります。先ほど6点お話がありましたけれども、この6点をしていって、今の状況下で本当にリハーサルまで市民の方々への周知が間に合うのかなというのはあります。

1年10か月後と考えれば、リハーサルに向けて積極的に取り組んでいただければ、少しずつ変わってはくると思いますけれども、まず、各競技の皆さん方への周知というのは物すごく私は大事だと思いますから、関係団体は確かにあります、野球であったり、アーチェリー、アーチェリーは鹿島の中でどのくらいの方々がされているのか分かりませんが、あと、グラウンドゴルフは多くの方がやられている、バグジーについては小・中学校とかで老人会

も含めてやられていますけれども、これについてももう少し市のバックアップが必要で、市民の皆さん方に分かってもらえるにはもう少し時間がかかるのかなと思っています。

ですので、まずは競技の周知をしていただかないと、やはり関心を持っていただかないと、せっかく鹿島でやっているのに関心がないとか、その競技を知らないとか、そういうことにはできるだけならないように事務局としては周知をお願いしたいと思います。

そういう関心があれば、ボランティアスタッフを募集されたときには皆さん方も一度やったことがあるからとか、そういう興味を持って参加をされると思いますので、ぜひこれから周知については担当課はより一層力を入れていただきたいと思います。

もう一点、先ほど答弁がありましたけれども、実行委員会の中に宿泊や競技間の移動手段についての専門部会がありましたけれども、全国から多くの選手や関係者が鹿島に来られる予定だと思いますが、宿泊や競技間の移動手段について、現在分かっている分で結構ですので、どのように考えておられるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えいたします。

選手、監督の宿泊や移動のバスについては、佐賀県が業者を通じて一括して確保をされます。現段階ではどこのホテルにどの競技の選手たちが宿泊するかは決まっておりませんが、会場とホテルはできる限り近くなるように配慮されるということ聞いております。

アーチェリー競技の選手や大会関係者の宿泊者は370名程度ですので、鹿島市内のホテルと近隣市町のホテルや旅館を使用することになると思われま。

また、軟式野球に関しては6市町において開催されますが、鹿島市民球場で行われる1回戦2試合の4チームについては宿泊者が150名程度であり、鹿島市内のホテルを含め、近隣市町のホテルを確保されると思います。

次に、宿泊地から会場までの移動については、試合が行われる市町においてバスでの送迎をすることとなっております。

以上でございます。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

この国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会については、参加人員の方が関係者も含め70万人から80万人と言われております。そういう中で、この皆さん方が競技によって鹿島に来られると思いますが、多くの方が電車とか飛行機で来られますが、ぜひ博多ー肥前鹿島間は特急を使っていただきたい。多くの方が電車で来ていただくということは、鹿島にとって

は非常に大事なのかなと思います。特に特急については3年後、今からちょうどその時期になると、特急の本数が14本から10本ということと言われておりますので、こういう機会を逃さず、ぜひ特急を使っていただいて、多くの方が鹿島に来るには特急を使っていただいているという点もぜひ担当課としては、県のほう、また、業者のほうに売り込みをしていただきたい。そうすることによって、14本が少しでも残るような可能性をこの大会で示していくということが私は大事だと思います。

先ほどの答弁もありましたが、質問の中でもう一つ、そうするためには受入れ体制の観光戦略をきちっと鹿島がしておく。太良、嬉野、近隣と連携しながら観光戦略を練って、参加された方に聞きますと、競技が終わった後、競技を始める前に、少し観光するとか、そういうお話はよく聞きます。実際行った方にも、関係者の方にもお聞きをしましたが、宿泊所からレンタルをして回ったりすることも大いにしてきたというお話も聞きますので、そういう意味での観光戦略をおもてなしも含めて今から考えていかないといけないと思いますので、担当課の見解をお伺いしたいと思います。

**○議長（角田一美君）**

鳴江生涯学習課長。

**○生涯学習課長（嶋江克彰君）**

お答えします。

観光戦略について申し上げます。先ほど説明をいたしました実行委員会の4つの専門委員会の1つである総務・企画専門委員会において、観光、おもてなしについて明記をしております。その内容ですが、全国から訪れるSAGA2024に参加する選手、監督、役員、視察人、報道員等及び一般観覧者を心の籠もったおもてなしで迎え、鹿島市の自然、歴史、文化を広く紹介し、笑顔あふれる大会となるよう努めるとしており、大きく5点を掲げております。

1点目が歓迎装飾の実施でございます。これは大会関係者等を歓迎するとともに、SAGA2024の開催機運や歓迎ムードを高めるため、競技会場等に歓迎装飾を行うというものでございます。

2点目が案内所の設置です。これは大会参加者等の利便性向上を図るため、競技会場等に案内所を設置し、競技、宿泊、交通、観光等の案内業務を行うというものでございます。

3点目が休憩所の設置です。これは大会参加者等が憩いの場として利用するため、競技会場に休憩所を設置するというものです。

4点目が売店の設置です。これは大会参加者等の便宜を図るとともに、鹿島市の特産物等を紹介及び販売を促進するため、関係団体等の協力を得て競技会場に売店等を設置するものでございます。

5点目がおもてなしの提供でございます。これは大会参加者に心の籠もったおもてなしを提供するため、関係機関、関係団体等の協力を得て、接客意識の高揚に努めるというもので

す。

今後、総務・企画専門委員会内での協議や、市内の関係機関と連携しながら具体的な内容を決定していきますが、本市を訪れる全ての方々に温かくお迎えするとともに、歴史、文化、自然など本市の魅力を紹介し、また訪れたいと感じていただけるよう、心の籠もったおもてなしを提供できるようにしたいと考えているところでございます。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

山口商工観光課長。

**○商工観光課長（山口 洋君）**

それでは続きまして、商工観光課からもSAGA2024に向けた観光戦略について現在の取組を紹介いたします。

選手、役員、また応援者など、多くの関係者の皆様が鹿島市に来ていただいた際に、市内観光地等へのスムーズなアクセス、また、観光地の魅力を感じていただけるよう、佐賀県の補助事業を活用いたしまして、内容が古くなったもの、また、盤面が色あせたものなど老朽化した看板を令和4年度、5年度にかけ改修を行うように予定いたしております。

また、今後の取組につきましては、先ほど生涯学習課のほうからも御紹介がありました鹿島市の実行委員会の下部組織の一つであります総務・企画専門委員会では、全国から訪れる大会関係者等の心の籠もったおもてなしに努めるということでされておりますので、商工観光課といたしましても、専門委員会、また、関係団体等と連携をいたしまして、今回の国民スポーツ大会が縁で鹿島市に来ていただいた多くの方が市内の観光地に立ち寄ってもらう、また、今回は日程が厳しく立ち寄れない方につきましても、また今度ぜひ鹿島に来たいと思っただけけるように、魅力発信に努めていきたいと思っております。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

15番松田義太議員。

**○15番（松田義太君）**

答弁をいただきまして、ちょっと私は大丈夫かなという考えもありました。それは来ていただいた方という言葉が答弁の中でお二人ともお使いになられて、その方々にはおもてなし含めてやられるのは分かります。ただ、来ていただくための努力をどう発信していくかというのが大事であって、恐らく70万人から80万人の方が佐賀県に来られますけれども、10市10町、各市町がそういう方々をめぐってPRをしていくわけですね。一人でも多くの方が自分の町に、自分の市に来ていただくと。その努力を早め早めにしていかないと、佐賀であった方が鹿島に来ていただくためには何が必要であるのかとか、そういうことを今から考えていかないと、競技の人たちとその関係者だけではなくて、違う競技であっても、各自治

体で開催された競技の方々もぜひ鹿島に来たいと、そういう人たちを取り込む戦略を今からPRとしてぜひ私はつくっていただきたい、そういう意味での情報発信をぜひやっていただきたいと思います。

これは恐らく各自治体の、ある意味での争奪戦も含めてやっていかれると思いますので、その辺はもう一度、今後の観光戦略——1年後のリハーサル大会で県外の方が来られるのか私は分かりませんが、少なくともリハーサル大会の前には、そういう方々への情報発信、受入れ体制も含めて、やはり商工観光課としては私は考えていただきたいし、観光協会を含めて、そういう意味での連携をぜひやってもらいたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（角田一美君）

山口商工観光課長。

○商工観光課長（山口 洋君）

お答えをいたします。

確かに議員おっしゃるとおり、待ちの姿勢ではなくて、こちらから積極的に情報発信というのは大事だと思っております。今後のPRの活動としましては、確かに単体の市だけでは無理ですので、近隣市町との連携、また、県の観光連盟等、関係団体との連携も重要になってきますので、そういった団体等と連携をいたしまして、どういった方法でPRができるのか、情報発信できるのかを含めて、今後、誘客に向けた取組を進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

ぜひお願いをしたいと思います。

最初に質問しましたが、特急の活用ということもぜひ頭に入れられて、観光戦略を含めてやっていただければと思います。

もう一点、この国スポとは別にして、今後、佐賀県がスポーツを機に人材育成を含めてやっていこうということで、佐賀県SSP構想ということでもあります。今後、この国民スポーツ大会を機に、新たに鹿島市でもスポーツを含めたまちづくりと人材育成をぜひお願いしたいというふうに思っています。

映像のほうを見ていただきたいと思います。

〔映像モニターにより質問〕

これは太良のアスリート寮、栄光寮というところです。これは佐賀県のSSP構想に含めて、太良高校、そして、太良町の活性化プロジェクトということで取り組んでおられます。ここがアスリート寮、栄光寮の中の食事をしたり、ミーティングをされるところになります。

中の映像は、こういう形で今来られています。当時、私がこちらのほうをお伺いしたときには、9名から10名の方が来られておりました。これについて少し質問をさせていただきたいと思います。

地元の鹿島高校も来年から、全県一区という言葉であると思いますが、県内全域から入学できるようになりました。また、県外からも来れることになるということでお聞きしております。

今後、スポーツを含めて、一人でも多くの若い高校生、中学生が、鹿島に魅力があれば鹿島高校に県内の各地から集まってこられるだろうし、もしくは県外のほうからも集まってこられるようになります。今すぐこういう設備をやっていくのは難しいだろうとは思いますが、今後は地元の高校と市も連携をして、一人でも多く鹿島高校に来ていただくように努力をしていくことも施策の一つかなと思っています。

今日の佐賀新聞を見まして、鹿島高校の倍率が載っておりましたけれども、少し定員を満たしていなかったというところもあります。こういうのを考えたときに、県のほうも国民スポーツ大会でスポーツ振興は終わりではなくて、これを機に、ぜひ佐賀県でスポーツに対する人材育成を進めていきたいというのは知事が最も言われていることでありますので、ぜひ鹿島の中でも5年後、10年後を見据えた上で、そういう投資を含めてやっていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えいたします。

まず、高校生のスポーツを行うに当たっての環境整備としましては、高校生のスポーツ寮の運営補助として、先ほど議員がおっしゃられました県のSSP構想の中で、県が民間事業者へ運営費の助成を行っている事例がございます。鳥栖市や佐賀市にありまして、また、先ほど映像で映させていただいたのは、太良町で民間会社が県の補助を受けて施設を改修したものだと思います。

これらの事業の目的ですけれども、県内の有望な高校生の県外流出を防止し、逆に県内にたくさん流入されることを期待して、民間事業と連携して始めたものとなっております。

スポーツ環境の整備につきましては、このように佐賀県による助成制度の活用と民間企業様の賛同をいただきながら推進していくことが有効だと考えております。市としましては、民間企業様への働きかけなどを通じてスポーツ強化につなげていければと考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。



**○15番（松田義太君）**

県のほうもこういう施設整備には県の宿舍運営費補助金とか、いろいろな補助金がありますよね。そういうのをぜひ活用していただきたいというふうに思います。また、これは太良町が取り組まれておることですが、ふるさと納税の活用とか、そういうものもありますので、少しこれを検討課題として、今後、子供たちが鹿島に魅力を持たれて、一人でも多くの学生が来られたときに、唐津とか鳥栖から来られると、今特急がこういう形になりましたので、非常に不便さもありますから、ぜひこういう宿泊施設も含めて対応ができるように、今すぐということではなくて、今後検討をしていただければと思います。

もう一点ですけれども、鹿島市独自でスポーツとして取り組んでいただきたいのが1点あります。それは今議会でもDXとか、いろいろな質問がありました。その中で、健常者の方も障害者の方も分け隔てなくできる一つのスポーツとして今よく言われているのが、eスポーツということであります。これはなぜ鹿島で今回お願いをしたいと言っているのかといいますと、2019年に鹿島高校がeスポーツの全国大会で優勝しました。その後、2020年、さが祐徳eスポーツ協会が設立をしました。他市と比べてもやれる環境がありますので、今後のスポーツという捉え方をしたときに、こちらのeスポーツも考えていただきたいと思えます。

こちらのほうは今よく言われるのが、本当に健常者の方も障害者の方も、また、性別も分け隔てなく多くの方々が参加をできる、そういうスポーツでありますので、この辺も今後のスポーツ振興の中で考えていただければと思いますので、よろしくお願いします。

時間が来ておりますので、次に、ノリの支援ということでお伺いをしたいと思います。

先ほどありましたけれども、1回目の入札が終わりました、確かに昨年と比べれば若干持ち直しであるかもしれませんが、課長が言っていたように、一昨年とすると、生産枚数、生産額、やっぱり3割減、4割減と厳しいですよね。本当に厳しいという状況であると思います。これまでも各議員からの質問がありましたけれども、ノリ養殖業の状況が非常に厳しい状況であります。

その中で、鹿島市もこれまで施肥の補助であったりとか、燃料の補助であったりとか、やられていると思います。今の状況下が今後も続くとした場合、市として支援策というのをどのように考えておられるのか、お伺いをしたいと思います。

**○議長（角田一美君）**

江島農林水産課長。

**○農林水産課長（江島裕臣君）**

お答えをいたします。

まず、市のほうの支援策といたしましては、原油価格の高騰を受けまして県内でも現在支援の取組が始まっておりますけれども、鹿島市といたしましてはいち早く6月の補正予算に

て予算をいただきまして、漁業者の皆様への支援を行ったところでございます。また、現在も今期13回の施肥が行われております。これに対する3割の補助を行う予定でございます。本年度に関しましてもこれは変わらず行っていこうと思っております、この予算については3月定例会の折に上程をさせていただきたいと思っております。

また、今後でございますけれども、今期1回目の入札があったわけなんです、その後、秋芽ノリがあと2回ほど、年内、年明けに予定されております。その後、冷凍のほうの入札も年明けから始まってまいりますので、その辺の状況を見ながら必要に応じた支援策を講じてまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

15番松田義太議員。

**○15番（松田義太君）**

漁業者の、特にノリ養殖の方々への支援というのは、これまでも各議員が質問されてきたと思います。私も何度も申し上げてきた部分があります。それは、養殖業をされている数の減少というのが物すごく私は気になっております。前も言いましたけれども、20年前が約200件、10年前が150件、今年度に至れば90件前後ということで、非常に落ちてきている。今まで第一線でやられてきた50代の漁業者の方とよくお話をするんですけども、以前までは何とか頑張るばいという言葉をお願いしていましたが、ちょっともうしきらんばいという言葉聞くようになりました。それは、海の状況も分からん、今後取れるか取れんかも分からん、それに加えて、施肥の値段は上がるし、燃料はこがらん高くなるし、経営ばしていけんというお話を聞くわけですね。昔は強気な方やったばってんなど思いながらもですね。それだけ厳しい状況であるというのを私たちは分かっておかないといけないと思いますし、その支援というのを今後どうしていくか、どのような支援ができるのかというのは、本当に考えておかなければならないのかなと思います。

農林水産大臣が佐賀に来られたとき、上京されたとき、市長もこの現状を訴えていただいておりますので、少しでもこういう漁場の改善につながればなと思いますけれども、2回目、3回目の入札の結果、そして、冷凍ノリの結果が少しずつ分かってくるとは思いますが、漁業者の方がもうしきらんじゃなくて、頑張ってみようというような支援をぜひお願いしたい。そういう意味で、今年が一番分岐点になると思います。今期取れなかったら、3年になりますから。だから、その辺を含めて、ぜひ現場の声を含めて、担当課として支援を考えていただきたいと思っておりますが、部長どうでしょうか。

**○議長（角田一美君）**

山崎産業部長。

**○産業部長（山崎公和君）**

お答えいたします。

議員が言われるように、ノリだけに限らず、漁業資源というか、有明海の貝にしても、近隣の太良も含めて非常に資源が今少なくなっているというか、取れない状況ということで、海環境が変わっているという状況であります。本当に鹿島はノリが主要な生産というところで、ここ数年、非常に厳しい環境が続いている中で、我々としまでもそこをしっかりと支えていかなければならないというところと、先ほど言われた今までのベテランの漁業者の方もなんですけれども、新しく若い人が漁業をされて入っておられる方、こういった方が将来しっかりと漁業でやっていけるようなところを我々もしっかりと考えていかなければならないと考えております。

この点につきましては、漁協というか、関係団体も含めて、当然今の目の前の状況に対するいろいろな補助とか支援というのは、施肥のことだったりとか燃油のところもやっておりますけれども、海環境とか、あと、そういう資源についても可能性のある、今後新たな資源のそういった可能性のところも漁協と一緒に話をしながら、ある意味、中・長期的なところも見据えながら、いろいろと話をしながら、あとは海況というか、潮の流れだったりとか、海底耕うんとか、そういったところもしっかり、ここは県とか国のほうにもお願いをしながらになるんですけれども、我々としてはやはり地元の漁業者の方と一緒に話をしながら、こういったほうがいいのかというところをしっかりと話をしながら対応していきたいと思っております。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

今すぐできること、そしてまた、長期的にやらなければならないことがあると思います。施肥についても農業のほうの肥料と一緒に非常に単価が高くなってきている。今30%の補助であると思いますが、緊急を要すれば、その補助額を少しでも上げてもらうとか、また、燃料については漁業経営セーフティネット構築事業ということで、一番最初に江島課長のほうから答弁いただきましたけれども、これについても漁業者の積立てもありながらの補助であると思いますので、その辺の燃料費の補助等も今後状況に応じては柔軟に私は考えていただきたいと思っております。

最後に、漁業の問題につきまして市長のほうに質問したいと思っております。

短期的な支援策についてはお話をしましたけれども、塩田川の河川のしゅんせつ、よく言われる潮の流れが変わっているというのは、ずっと言われてきました。漁業者の方も何とか今すぐと言いたいけれども、早い時期にこの河川のしゅんせつをしていただいで、少しでも漁場の改善に何とかできないだろうかということをよく言われています。

これまでも農林水産大臣のほうにお伝えをされていると思いますが、一日も早いしゅんせ

つに向けて、ぜひお願いをしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（角田一美君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

今、海の状況についていろいろと質問されました。私のほうも経験者として、今年の状態は決していい状況ではないというふうに思っております。実は昨日、大分夜遅かったんですけど、佐賀の東部の漁業者が電話をしてこられました。東部といえば、大体ノリの不作はあまりない地域です。そこで、今年は大変よと、佐賀県いっぱい同じような状況、ほんな河川の上流部だけ少し色があるけど、沖は色落ちして、全体的に佐賀県いっぱい変わらん状況ということでした。

そういうことを考えれば、先ほどノリの栄養塩を落とすプランクトンの話をされましたけど、ユーカンピアという種類は大体年明けの2月ぐらいから発生を始めてきて終業に向かうというようなケースに出るプランクトンなんです。それがもう出てきているというのは、かなり今後厳しいなという予測をしております。来年度、冷凍網を取れるか取れないか、それにも関わってきますので、本当に厳しいなというふうに思っております。

そういう中で、先ほどおっしゃったように、鹿島市は今までずっと施肥事業で支援をしてきましたが、施肥というのはあくまで状況が悪くなったときにやる施策なんです。本来、やはり海況をよくしていくというのが一番いいと思いますので、今、議員おっしゃったように、塩田川のしゅんせつ、これは作滞とも言いますが、そのことで潮の流れをよくしてやる、海の環境の改善をやるというのが、この地域にとっては一番有効な策ではないかなというふうに思っております。

先ほどおっしゃったように、東京のほうに出向いて野村農林水産大臣のほうに話しました。そのことは私のほうからしっかり、今、鹿島の地域は潮の流れが極端に悪くなっている、潟が堆積しています、こういう状況であるので、なかなかプランクトンが減らなくて海況が改善しないということを申し上げて、大臣のほうもその内容については分かっていたきました。そこには事務方の方も来ておられましたので、これについては予算を伴います、来年度予算が今策定を始めておられるので、ぜひ塩田川の作滞について予算をつけてくださいというお願いをしてきたところです。我々の思いがぜひかなうように、向こうのほうにも今後も力強くお願いをしたいというふうに思います。

さっき申しましたけど、今の状況は非常に厳しい。冷凍の出庫が大体来年1月2日に出庫予定ですが、今のところ、26日、29日に協議をして、出庫をするかどうか、それについてもまだ十分決まっていない状況です。そういう状況ですので、今後のいろんな様子を見ながら、鹿島市としてどのような支援ができるのか、しっかり考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（角田一美君）

15番松田義太議員。

○15番（松田義太君）

ノリ養殖につきましては松尾市長が一番経験もされていますし、今までの状況というのはよく御存じですので、ぜひ養殖をされている方々が今年度でも来年度も含めてやっていこうという気持ちになるように、市としても今後の取組をやっていただきたいと思ひますし、よく市長がおっしゃいます近隣との連携、そしてまた、県との連携というのは、今までもこの7か月やってこられたと思ひますので、こういうノリについてもぜひ連携を取りながら、要望活動を含めてやっていただきたいと思ひます。

今日は2つの大きな質問をさせていただきました。

まず、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会については、やはり鹿島にとってはこの機会をきちっと対応していく、この機会を逃さないように、一つのスポーツ大会ではなくて、観光、また、いろいろな産業を含めて、やれることは何でもやっていくという姿勢で臨んでいただきたいと思ひます。

ノリについては今まで質問をさせていただきましたけれども、皆さん方が御存じのとおり、非常に厳しい状況であります。市としてできることは何でもやっていくと、そのような気持ちでぜひ臨んでいただきたいと思ひます。

これで15番議員の質問を終わります。

○議長（角田一美君）

以上で15番議員の質問を終わります。

ここで10分程度休憩します。11時25分から再開します。

午前11時14分 休憩

午前11時25分 再開

○議長（角田一美君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

次に、2番宮崎幸宏議員。

ここで申し上げます。宮崎幸宏議員の一般質問で議場モニター映像の使用を許可します。

○2番（宮崎幸宏君）

お世話になっております。2番議員の宮崎です。よろしくお願ひいたします。本年も残すところ僅かとなりました。鹿島市政におきまして、1年間支障を来すことなく職務執行いただいた松尾市長をはじめとする市職員の皆様に感謝申し上げます。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

なお、今回の質問は、鹿島市にとっての喫緊の課題をテーマに話をしたいと思ひます。

質問事項の1つ目はJR肥前鹿島駅周辺整備事業に関する事、2つ目はスポーツ振興に

よる地域活性化に関すること、3つ目は鹿島バイパスの豪雨に伴う冠水対策に関することの3項目であります。

最初に、JR肥前鹿島駅周辺整備事業に関しまして、本年9月23日、長崎本線の特急が減便となり、鹿島市は窮地に立たされています。それに対する振興策として本整備事業が進められていますが、改めて問います。この整備事業を行う動因、理由及びこれまでの経緯をお伺いします。

さらに、本整備事業の概要に関しまして、駅舎、ロータリー、附属施設などの事業内容及びこれに関わる総事業費、それと、完成予定時期を併せてお伺いします。

次に、スポーツ振興による地域活性化に関しまして、現在、カタールでサッカーワールドカップが開催されています。たくさんの方が御覧になっているかと思えます。日本代表が強豪国に勝ってベスト16となった快進撃は、日本国中を熱狂させました。とりわけ日本代表選手を輩出している地元の県や市町などでは、おらがまちのヒーローを応援するとともに、自慢することで、活気に満ちた模様が中継映像で見取れました。

さて、いよいよ2年後に、佐賀県においてSAGA2024国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会が開催されます。数多くの鹿島市出身の地元スポーツ選手が活躍されることを大いに期待するものであります。

つきましては、スポーツ振興による地域活性化が期待できる鹿島市出身の地元スポーツ選手及びチームに対しましてどのような支援が行われているか、お伺いします。

また、国スポ等で活躍が期待される地元スポーツ選手に対する鹿島市及び佐賀県の支援メニューに関しましても、併せてお伺いします。

最後に、本年8月16日に北鹿島振興協議会及び北鹿島区長会から要望しました鹿島バイパスの豪雨に伴う冠水対策に関しまして、本バイパスとの関係と経緯及び冠水の原因についてお伺いします。

以上、総括質問を終わります。3つの質問に関しまして、それぞれ御説明、また御回答のほどよろしく願いいたします。その上で、さらなる質問をさせていただきます。

**○議長（角田一美君）**

執行部の答弁を求めます。橋川都市建設課長。

**○都市建設課長（橋川宜明君）**

まず、私のほうから1点目、肥前鹿島駅周辺整備事業を行う動機及び経緯のほうを回答させていただきます。

肥前鹿島駅周辺の課題は、以前から幾つか挙げられておりました。特に交通処理の問題です。送迎車両が常習的に駅前の県道に2列、3列で縦列駐車し、接触事故の危険性が高いことなどになります。このような課題は以前からありまして、課題解決のための駅周辺整備をしようと検討を行ってまいりました。スカイロードの整備に併せて駅周辺整備ができないか

などがございます。しかし、並行在来線区間の経営分離問題、財政的な負担、誰が整備事業主体になるのかなど、様々な問題の中で駅周辺整備の実現には至っていませんでした。

今回は、ようやく県や公共交通事業者など関係者が同じ方向を向いて協議のテーブルに座ってもらっております。このチャンスを逃がしましたら、未来永劫、肥前鹿島駅周辺の整備はできないかもしれないとの気持ちを持って、この事業の計画策定に取り組んでいる次第です。

以上です。――失礼しました。あともう一つありました。

その上で、本事業の概要、事業費、完成予定のほうを伺いたいということで質問に答えておりませんでした。大変申し訳ございませんでした。

まず、肥前鹿島駅周辺整備事業の概要を申し上げます。

「人と自然がつながる私たちの“まちの駅”」をテーマ、コンセプトに、3つの整備目標を掲げております。1つ目が「鉄道を中心とした交通結節点を強化し、“まちの交流循環拠点へ”」、2つ目が「豊かな暮らしや風景を感じられる、“まちの玄関口としての肥前鹿島駅へ”」、3つ目が「歴史と文化を活かし“賑わいあふれ、人にやさしい駅周辺まちづくりへ”」。

加えまして、整備の方向性を3つ掲げております。1つ目が訪れる人が降り立った瞬間に鹿島らしさを感じられる駅、2つ目が県南西部の玄関口として国内外から多くの人を訪れる駅、3つ目が市民自らが主体的に利活用し魅力を発信する拠点としての駅。

これらの目標や方向性を踏まえまして基本計画で決めました施設配置は、まず、現駅舎の復原再築と新駅舎の増設、交通問題解決のために公共交通ロータリーと一般車ロータリーのダブルロータリーを設置し、その間に駅前広場を整備し、中心商店街のほうへ安全な歩行者動線を描くとともに、にぎわい拠点施設と西側駐輪場をその中に整備します。

なお、県が事業全体のデザイン監修を含む基本設計を行っており、想定される事業費はまだ大きく変わる可能性がありますので、公表しない約束となっております。

また、完成予定はどのように整備するかで変わるものではあります。国土交通省の補助メニューを使う場合、おおむね5年で事業計画を立てないといけませんので、仮に令和6年度に補助事業部分に着手するとしますと、事業完了年度は令和10年とか11年という時期になってまいります。ただし、今回の事業は既存の施設を改築する部分を含みますので、全てが最終年度に完成するわけではありません。ステップ、段階を追って事業に着手、そして、完成をしていきます。その段階とは、おおむね次のように考えています。

まず、用地買収の必要がない新駅舎の増築に着手し、新駅舎が完成しましたら駅舎機能を新駅舎に移しまして、現駅舎の復原再築に着手、その間にダブルロータリーの用地買収を進めて、用地買収が完了したほうからロータリーの整備に着手、駅前広場はその間、工事の資材置場及びバスやタクシーの仮駐車場として活用し、そのほかの工事が一段落してからの工

事着手——これはにぎわい拠点施設や西側駐輪場を含みますが、これらの工事着手となる予定でございます。

以上でございます。

**○議長（角田一美君）**

嶋江生涯学習課長。

**○生涯学習課長（嶋江克彰君）**

生涯学習課からは、鹿島市のスポーツ選手に対する支援メニュー、それから、佐賀県の支援メニューについて御説明いたします。

鹿島市のスポーツ選手に対する支援としましては、大きく3点ございます。

1点目につきましては、小・中学生の児童・生徒を対象として、社会教育での九州大会や全国大会に出場する際の交通費、宿泊費の助成を行うもので、九州大会は3千円、全国大会は5千円が上限となっております。これは生涯学習課が窓口となっております。

2点目は、高校、一般を対象として、同じく九州大会を3千円、全国大会に5千円を上限として交付しております。これは体育協会が窓口となっております。

3点目につきましては、小・中学校の児童・生徒の中体連、合唱、吹奏楽の九州大会、全国大会に出場する際の交通費、宿泊料等を助成するものです。これは教育総務課が窓口となっております。

佐賀県の補助制度であるSAGAスポーツピラミッド構想、いわゆるSSP構想ですが、その中の個人伴走型支援におきまして年代ごとにアスリートを認定し、支援金を交付するというメニューがございます。年代ごとに3つに分かれておりまして、1つ目が中高生を対象としたSSPホープアスリート、これは奨励金が200千円から300千円で、要件は全国8位以上です。認定数は現在159人、鹿島市は6人の方が認定をされていらっしゃいます。

2つ目が、高校生以上を対象としたSSPライジングアスリートです。奨励金が500千円で、要件は全日本選手権8位以内、世代別大会で3位以内となっております。認定数は佐賀県で85名、鹿島市では1人の方が認定をされていらっしゃいます。

3つ目が、大学生を対象としたSSPトップアスリートになります。強化費は1,500千円で、要件は世界大会への出場が決定、内定、もしくは有力視されている選手になります。認定数が現在12人、鹿島市はいらっしゃいません。

以上でございます。

**○議長（角田一美君）**

橋川都市建設課長。

**○都市建設課長（橋川宜明君）**

それでは、3番目の鹿島バイパス及びその周辺の冠水に関する経緯及び原因につきまして、こちらのほうは複数の課にまたがるものでございますが、私のほうから全体的なところを回



答させていただきます。

まず、北鹿島の地形は低平地と呼ばれる部分が大半を占めております。

次に、鹿島川、塩田川ともに潮の満ち引きで川の水位に大きな影響がある感潮河川に分類されます。鹿島川の組知橋観測所で水位が消防団待機水位の2.8メートルを記録すると、北鹿島地区の水路の水が自然に川に流れなくなってしまいます。このような地形特性のため、北鹿島地区全体が内水浸水しやすい地域と分類されております。

その上で、議員御質問の鹿島警察署付近のバイパスの冠水の原因についてお答えをいたします。

まず、このような大雨が降りまして市内各地で浸水被害や土砂災害が発生いたしますと、協定に基づきまして、議員の皆様から情報をこちらにお寄せいただいております。この場を借りましてお礼申し上げます。

お寄せいただいた情報の中で、担当者といましては、またここが冠水したんですねと受け止め切れる箇所もあれば、本当ですかと驚きを持って反応する、想定していなかった箇所もあります。このような想定していなかった箇所は記録をしておき、次に大雨が降ったときに、安全には十分配慮しながら職員を派遣し、原因を探っていくこととなります。これはふだんのときと大雨のときは水の流れが変わったりしますので、そのときでないと分からないことが多いからです。

議員御指摘のバイパスの冠水も令和3年度が初めてで、平成26年、令和2年の大雨のときに冠水せず、令和3年の大雨で冠水した理由は不明です。ですので、今度大雨が降ったときに原因の究明のため職員を派遣いたしますが、現場確認は危険を伴いますので、ある程度推論を立てて、現場確認を短時間で済むようにしたいと思います。

もしこの後の一問一答で、こちらのほうがデータ等で写真を提出しておりますので、そのデータを使って、推論でよければ、その原因と考えられるものを御説明させていただければというふうに考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

ありがとうございました。

それでは、JR肥前鹿島駅周辺整備事業に関しまして、さらに質問いたします。

こちらのモニター画面を御覧ください。

〔映像モニターにより質問〕

先ほど都市建設課から説明がありました本整備事業の概要図になります。

こちらが改築をされる現駅舎です。こちらが新しく建てられる新駅舎になります。こちら

のロータリーが公共交通用のロータリー、こちらが一般車両のロータリーとなります。このロータリーの間、えきまち広場、それと、にぎわい拠点施設、それと駐輪場で、こちらのほうに市営駐車場、それと、こちらが観光バス等の駐車場ということで整備されるということです。かなり広範囲かつ大規模な公共施設事業の感じに私としては思えます。

私が市議会議員となり、6月の議会全員協議会で本整備事業について初めて説明を受けたときから、ずっと違和感を持っております。それは本整備事業の実施時期がずれているというところでは。

今さらの話になりますが、本来、長崎本線特急の減便になる以前に本整備事業を行っておけば、鹿島市民も醸成され、それに伴い列車利用客が増加し、駅前ににぎわいをつくることのできたかもしれません。もしかしたら特急減便に関するJRの判断も違ったかもしれません。残念ながら何も変わらない状況で9月23日を迎え、現在、長崎本線の利便性低下に困惑している次第であります。完全に本整備事業の実施時期を逸した感があります。そのような状況の中で、今から本整備事業を大規模に行うのは時代背景に逆行しているという気がしてなりません。長崎本線特急減便を契機に、前向きに捉える気持ちと姿勢は大事です。ですが、現実的なことと将来性を見極めた公共事業を判断することは、より重要なことでもあります。

先ほど答弁では、常習的な車両混雑等の課題が本整備事業の理由、経緯であると説明がありました。このことは以前の特急運行があった時点で、佐賀、博多、諫早、長崎方面への通勤・通学客の状況によるものだと思います。今回の長崎本線特急の減便、さらに数年後にさらなる減便、それとともに人口減少、少子化を考えますと、長崎本線の利便性低下に伴い車両混雑も必然的に解消されることが推測され、さきの答弁には課題を捉える時点において矛盾があると思われます。

また、本事業の整備目標及び方向性について、鉄道を中心とした交通結節点の強化、県南西部の玄関というフレーズは、西九州新幹線が武雄市や嬉野市に開通したことにより、現実的ではないと思われます。

さらに、駅舎、ロータリー、附属施設などの事業内容に関しましても、武雄市の西九州新幹線開業に伴う駅前周辺整備、佐賀市のSAGA2024国民スポーツ大会開催のための駅前周辺整備等の大義名分がなく、大規模な駅前周辺整備の計画は、鹿島市を取り巻く事情及び環境からすると相応しないように見えます。

しかしながら、私としましても、JR肥前鹿島駅駅舎については老朽化等もあり、鹿島市に訪れた方の最初のまちの印象として、よいイメージを持っていただくためにも新装することは理解します。

また、駅前ロータリー整備に関しましては、公共交通用と一般車両用を区分せずに、他の駅で見られる一般的な一方通行のロータリー形式で整備すれば、現課題の3方向からの車両進入、混雑も解決できると考えます。

さらに、にぎわい拠点施設は駅舎に集約するなど、現事業計画をもっとコンパクトな事業内容にし、無用な事業用地を要しない、不要な事業費を支出しない工夫をするべきであります。

なお、事業費に関して、さきの答弁も含め、以前の議会全員協議会においても質問し、公表できない旨の答弁がありました。事業を実行する上でどれぐらいの事業予算規模で行うかは大前提、基本であり、その事業費が提示できないことは到底納得できません。今後の鹿島市の財政状況を考え、まずは鹿島市の身の丈に合った事業予算を設定し、その予算内で事業を行うべきではありませんか。充実した事業内容を決めた上で、それに関わる事業予算を設定するとは、あまりにもコスト意識がなさ過ぎます。

本整備推進室長である山浦部長に伺います。私が今指摘した点、あるいは先ほどの事業費、一体どれほどの事業費を想定されているのか、改めて答弁をお願いいたします。

○議長（角田一美君）

山浦建設環境部長。

○建設環境部長（山浦康則君）

お答えします。

先ほど課長が説明いたしましたけれども、今まで何度となくこの駅前周辺整備につきましては議論して、整備を試みてきたところでございます。ただ、先ほども課長が申しましたように、上下分離の件がありましたので、なかなか関係機関が同じ方向を向いて整備しようという形にはなっていなかったのが現実でございます。本来ならこの駅前周辺整備については、いろんな関係機関、県も各機関、市、JR、複数の事業者が関係してきますので、そこら辺の意識合わせが大事ななということを思っていたところでございます。なかなかそれが同じ方向を向いていなかったというのが現状でございます。

今回、9月23日に上下分離になったことで、このままではいけないということで、地域の振興と佐賀県南西部の玄関口となるべきところですので、一緒になって振興していこうということで着手しているわけでございます。

もう一つ、あと、事業費に関してですけれども、当然、通常考えますと、予算をどれぐらいなら出せるのかというふうな形で決めていくんですけれども、こういう大きなプロジェクトにつきましては、じゃ、一体どれぐらいかかるのかというのが最初の疑問になります。最初に予算を決めてしまいますと、やはり必要な機能もつくれなくなってしまうということになりますので、じゃ、手順としまして、どのような機能、施設が必要かを決め、それから事業費を算出していくことになります。次に、どのような補助が適切かを選択しまして、補助額や、あと、財源ですね、起債とか一般財源などを考慮しまして、また事業期間なども総合的に勘案することになります。その中で、大体事業費がこれくらいかかるということになれば、そのときに財政的なもので、じゃ、これだけかかるんだけれどもとなれば、やはり財政

的にちょっと厳しいということになれば、再度規模とか、配置とか、あと、整備のグレード、そこら辺も考慮して段階的に精度を上げて事業費が決まってくるものだと考えていますので、今は基本構想、基本計画の段階で、今後、基本設計ができた段階でこういう作業が入ってきますので、事業費自体がまだまだ決まっていないというのが現状でございます。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

少し時間を取りましたので次に移ります。

先日、JR肥前鹿島駅前の祐徳ビルの移転が始まり、その移転跡地が本整備事業用地になる旨報じられましたが、駅前周辺の関係者、すなわち事業用地対象者に対しまして事業説明等を行っているのでしょうか、お伺いします。

○議長（角田一美君）

橋川都市建設課長。

○都市建設課長（橋川宜明君）

お答えいたします。

まだ事業認可前ですので、用地対象者としての説明は行っておりません。近隣住民を対象とした説明会で3回ほど行っております。

また、関係する公共交通の事業者は、全体構想策定、基本計画策定に委員として参画をいたしてもらっております。

以上です。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

事業関係者にとっては物理的支障や精神的負担があらうかと思っておりますので、情報に関しては速やかに公表するとともに、丁寧な対応をお願いいたします。

次に、本整備事業におきましては、駅舎とロータリーを佐賀県、駅前広場やにぎわい拠点施設、駐車場、駐輪場などの附属施設を鹿島市が事業実行することになりますが、それぞれの役割分担、それと、施設完成後の維持管理に関しましてどのようになっているのか、お伺いします。

また、既に本整備事業に係った全体構想策定及び基本計画、基本設計などに約33,000千円がコンサル料として費やされています。この内容のうち、佐賀県事業分をどのようにしっかりと佐賀県に引き継ぐのか、お伺いします。

○議長（角田一美君）

橋川都市建設課長。

**○都市建設課長（橋川宜明君）**

お答えいたします。

まず、事業区分としては、こちらの画面に出ているとおりでございますので、割愛させていただきます。

この中で、役割分担は基本それぞれの事業区分でしっかりと事業をしていくところではあります。また、一体的な整備を目指すことから、お互いに協力しながら行っていくので、まだ詳しい役割分担はこれからとなります。

また、維持管理費においても、県の事業区分に市の施設が、市の事業区分に県の施設が入居する可能性がありますので、まだ維持管理費などの検討には着手をしていないところです。

次に、全体構想、基本計画の佐賀県への引継ぎについて回答いたします。

基本的に、このような大型事業は全体構想から基本計画、そして、基本設計と漠然とした内容から段階を経て内容を絞っていきます。全体構想と基本計画は1冊の本にまとめていますので、それをそのまま県に引き継ぎ、県はこれらを基に全体的なデザインを決めていきます。

なお、県の方もこれらの構想策定には入っておられましたので、その策定の中には十分御承知をされているところでございます。

それから、この全体的なデザインが決まりましたら、市は市の事業区分の基本設計をまとめていくことになります。

なお、基本計画策定時に基本設計の一部の業務を同時並行的に進めていた分については、県のほうにデータとして提供をする予定となっております。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

2番宮崎幸宏議員。

**○2番（宮崎幸宏君）**

今質問した中で、私が最も危惧しているのは、このような公共施設、ハード事業において、施設建設に要する費用もさることながら、施設完成後の維持管理が継続して必要となってくることです。そのため、佐賀県事業分については維持管理を含めてしっかりと佐賀県に担っていただくよう、協議、確認を強くお願いします。

また、繰り返しになりますが、本整備事業の総事業費が未定の中、全体構想策定及び基本計画、基本設計等のコンサル料として、既に約33,000千円が支出されています。この33,000千円が無駄にならないように、鹿島市の思いや考えを佐賀県側に確実に引き継ぐことを要求します。

先日、本整備事業の参考のために、福岡県田川市の田川伊田駅を行政視察して調査してきました。

田川伊田駅は、JR日田彦山線と平成筑豊鉄道の2路線が乗り入れる駅で、洋風レトロ調の駅舎に改築され、駅舎には各種テナントがあって、駅前整備事業の一環により駅前ロータリーも整備されていきました。駅舎ホテルという工夫がありましたが、視察当時は駅及びその周辺は閑散としており、先例となる本駅の現状は、鹿島が進めるJR肥前鹿島駅周辺整備事業の先行きを心配するものでありました。また、同種事例として、鹿島市の肥薩おれんじ鉄道の阿久根駅も苦戦していると聞き及んでいます。

このような他県の実例駅の現状について調査されていますか。私はどうしても現在の基本計画の内容では到底誘客できるようなものではないと思います。誘客やにぎわいづくりに関して、どのような公算がありますか、お伺いします。

**○議長（角田一美君）**

午前中はこれにて休憩します。

なお、午後の会議は午後1時から再開します。

午後0時 休憩

午後1時 再開

**○議長（角田一美君）**

午前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

2番議員の質問に対する執行部の答弁を求めます。橋川都市建設課長。

**○都市建設課長（橋川宜明君）**

お答えします。

確かに、鹿島市と同規模の都市——もう少し具体的に言いますと、5万人未満の地方都市の駅周辺整備事業は苦戦しているのが現状であると認識をしております。ただ、その中に、同一事業で併設しました建物の中には多く人が集まっている事例がありました。ただ、駅前には人が少なく閑散といたしております。

こちらの整備目標の中に「賑わいあふれ」という表現がありますので、駅周辺に人が見えるような整備をしていきたいと考えています。にぎわい拠点施設は大きな建物ではなく、駅前広場と併せて、駅周辺に集まった人が外から見えるような整備をしていきたいと考えています。

また、5万人未満の地方都市の駅周辺整備事業で外部の評価が高い駅が近くにあります。肥前浜駅です。ここの整備を振り返ってみますと、最初に浜地区及び肥前浜宿の皆さんの肥前浜駅を利活用する熱い思いがありました。当時の観光列車「ななつ星」が来るたびに、おもてなしをされていました。その後に肥前浜駅の復原再築と「HAMA BAR」の併設という順番になります。結果、9月23日以降、肥前鹿島駅は特急電車が大幅に減便されましたが、肥前浜駅は「ふたつ星」という観光列車が週3本、従来の「36ぷらす3」に加え増便されています。

なお、これらの観光列車の停車時間は、肥前浜駅が最も長くなっています。

加えて、JR九州は肥前浜地区の古民家を借り上げて宿泊施設を開設しています。

このように、肥前浜駅の評価の大きな要素になったのが近隣住民や関係事業者の人であったと考えた場合、肥前鹿島駅においてその動きは、まだまだであると判断しております。これからも肥前鹿島駅が駅利用者だけでなく、近隣住民や事業者の皆さんが利活用できるような動きを続けていきたいと考えております。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

2番宮崎幸宏議員。

**○2番（宮崎幸宏君）**

今の答弁が、本整備事業後のあるべき姿、方法として全てを物語っていると思いました。

JR肥前浜駅の整備は、まず、浜地区の皆様の熱い思いがあって、肥前浜駅周辺地区を盛り上げ、にぎわいをつくり、それが原動力となって肥前浜駅駅舎の改築を成し遂げたと思います。その上、必要最低限の駅周辺整備により効果を発揮しており、評価すべきものであります。同じ鹿島市内に優良な事例があるではないでしょうか。まさしくJR肥前浜駅を見習うべきだと思います。まずは、本整備事業に当たっては、鹿島市民の醸成を促すべきだと私は思っております。

続きまして、本整備事業における駅舎及びロータリー整備の主たる事業分を佐賀県に行ってもらえることは非常にありがたいと思っております。しかしながら、駅施設を利用したり、鹿島市以外からの来訪客をおもてなしするのは鹿島市民であるので、鹿島のために、鹿島らしさを演出するためには、鹿島市が本整備事業全体を管理及び主導するべきではないかと思っておりますが、見解をお伺いします。

それを踏まえまして、今後の事業スケジュールや市民向けの説明会などの本整備事業の実施計画に関してお伺いします。

**○議長（角田一美君）**

橋川都市建設課長。

**○都市建設課長（橋川宜明君）**

お答えします。

全体構想、基本計画の段階におきましては、いろいろな意見をできる限り取り入れる大枠の計画を策定してきましたが、基本設計、実施設計の段階に来ますと、テーマを絞り込んだ先鋭的な内容になってまいります。その絞り込む基となりますのは、全体構想や基本計画時に行ったヒアリングやアンケートの中からとなります。ここからは市民や関係事業者の思いが詰まった全体構想や基本計画を基に、事業費を一番負担するところが全体的なデザインを主導して作成するところかと認識をしております。

ただし、これらの計画を基に実際に利活用するのは、議員御指摘のとおり、鹿島市民であり、駅を利用する皆さんであり、鹿島市内の事業者であり、近隣市町の事業者です。肥前浜駅と同じように、駅周辺で鹿島らしさを演出し演じるのは人ですから、市は人材の発掘に力を入れていきたいと思えます。駅を使いやすくするには、駅を活用する皆さんの意見を取り入れていくのは当然と思っておりますので、そこは県に意見を伝えていく予定になります。

また県からは、新しいデザイナーが決まり、全体的なデザインがある程度固まってから市民向け説明会を含む事業スケジュールを再設定すると聞いておりますので、その段階でまたお伝えをしたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

今の答弁では、事業費を負担する佐賀県が主導するとか、佐賀県から市民向け説明会を設定しますとか、残念ながら全て鹿島市が受動的な立場になっています。本整備事業の事業主体は鹿島市である認識の下、事業スケジュールの管理や事業の主導を責任持って進めていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

この質問の最後に、今の質問答弁のやり取りを踏まえて、また、本整備事業をはじめとする民間活力の誘導及び町なか、市街地の整備に関しまして、事業の進め方等の松尾市長の考えをお伺いします。

○議長（角田一美君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

駅整備、駅前整備は、これからの鹿島市の大きなプロジェクトだというふうに思っております。9月23日に上下分離があつてから、県が駅舎の管理をするということで、駅の管理についても駅の整備についても県のほうが関与していくということで、私が就任したすぐに県のほうに出向いて話をした際に、県も鹿島らしさを十分発揮できる駅の整備をしたいという話をお互いにしました。

今後の整備については、議員おっしゃるように、鹿島らしさということで今、肥前浜駅の例を紹介されましたが、やはり人です。鹿島というのは、やはり人間力、地域力というのが非常にあると思えます。浜をいろいろ今まで引っ張ってこられた方は、自分が、自分たちがこの地域のまちおこしをやっていくということで長年取り組まれておりますので、この鹿島市というのはそういう地域力が私はあると思っております。その地域力を生かして、町なかの駅前のにぎわい施設、そこら辺の整備についてはお互いに話をしながら、やはり地元が盛り上げていかないと、この整備事業というのはいかぬかと思っておりますので、今後、



今から進めていく上で、地元の皆さん方の駅の整備に対する思い、そういうのをしっかりお互いに話し合いながらこの駅前整備について取り組んでいきたいというふうに思いますので、市民の協力というのが大事です。そのことは皆さん方にもよろしくお願ひしたいというふうに思います。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

新市民会館新築事業に続き、JR肥前鹿島駅周辺整備事業も大型公共施設、ハード事業であります。費用をかけて建設しても、有効に活用できない場合、税金の無駄遣いとなり、市財政を圧迫することになります。これからの時代、公共施設、ハードを整備するのであれば、ライフサイクルコストの管理をしっかり行い、身の丈に合ったスペック、内容の施設にすべきであります。

また、施設に市民参加やにぎわいを求めるのであれば、特に使い方、ソフトを重視した施策が大切になります。例えば、施設に広場スペースをつくっても使う人がいなければ、そこは無駄に広い空きスペースとしかありません。利用者である鹿島市民を巻き込みながら、ソフト重視の考え方へのシフトができるかどうかで、今回整備する施設が有効となるか、あるいは負の遺産となるか、命運が分かれるところになります。

いずれにしても、本整備事業には鹿島市の財源、佐賀県の財政、国の補助金等の多額の事業費が投入されます。全て鹿島市民の方が納税された公金です。ぜひJR肥前鹿島駅周辺整備事業を行うに当たっては、現在の駅利用状況、鹿島市民の醸成、さらに市財政の見通しを踏まえて慎重に判断するよう強くお願いするとともに、これからもしっかりと監視していきたいと思ひます。

続きまして、スポーツ振興による地域活性化に関して、さらに質問します。

モニターを御覧ください。

〔映像モニターにより質問〕

佐賀県で開催されるSAGA2024国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会、我が鹿島市においてもこのモニターにある御覧の各スポーツが行われます。先ほど松田議員の一般質問で説明されたスポーツ種目になります。また、同年にはパリオリンピック・パラリンピックも開催され、佐賀県代表、あるいは日本代表として、鹿島市出身のスポーツ選手が活躍することを望むところです。

そこで、先ほど答弁いただいた支援以外に、SAGA2024国スポなど、ひいてはパリオリンピックに向けた鹿島市の地元スポーツ選手に対する鹿島市としてのさらなる支援メニューに関して見解をお伺ひします。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えいたします。

現在、鹿島市においては、選手が国体に出場される際に体育協会と鹿島市で壮行会を開催しております。そのときに激励金を差し上げているところです。ここ数年は鹿島市の、特に高校生の活躍が顕著で、鹿島市表彰とか鹿島市教育委員会表彰を受賞される方が多い状況にあります。

SAGA2024については、48年ぶりの地元開催である点、国民スポーツ大会と名称が変わる点、鹿島の選手の活躍が期待できる点ということで、市民の皆様の注目が大きい大会になると認識をしているところでございます。これらのことを考慮に入れながら、鹿島市のトップスポーツ選手に対する支援にさらなる上乘せが必要かどうかについては、今後協議を行いまして判断させていただきたいと考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

前月11月の鹿島市表彰式において、スポーツにおける優秀な成績を収められた鹿島市出身の高校生4名が表彰されました。この4名を含む将来性豊かな地元のスポーツ選手の活躍は、時として地域における話題をつくり、地域のコミュニケーションとなり、地域を盛り上げるツールとなっていきます。

成功例としまして、伊万里市の甲子園プロジェクトがあります。市内と近隣の高校の甲子園出場をテーマに、少年野球教室や高校野球強化試合の支援等の事業を行い、その結果、同地区の高校が幾度となく甲子園出場を果たし、5年間の短期事業の間に一定の成果を上げました。それにより地元地域が盛り上がり、活性化したことは記憶に新しいかと思えます。

鹿島においても、過去には鹿島高校が甲子園に出場し、見事ベストフォーになった際は市内パレードがあるほどの地元の盛況ぶりであったと伝え聞いております。私自身の自慢となっています。鹿島市は昔からスポーツが盛んな地域で、優秀な選手や強豪チームが輩出され、時にはプロスポーツ選手やオリンピック選手も出ております。このような鹿島市のスポーツヒーローやヒロインの出現は、鹿島市の活気、鹿島市民の話題、鹿島市民の笑顔を必ずつくり出してくれることでしょう。

ぜひSAGA2024国スポなどをきっかけに、地元スポーツ選手の育成、強化などの支援事業の検討をお願いします。当然、支援事業には財源が必要となりますが、新たな財源を充当することが難しいことは重々承知しています。現行のスポーツ支援事業の予算範囲内において事業を見直したり予算配分を組み替えたりして、スポーツイベントに反映させた短期集中的な

新規スポーツ支援事業を策定してもらいたく、松尾市長に見解をお伺いします。

○議長（角田一美君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

議員から今紹介がありましたように、今年度の市長表彰、教育長表彰、若い人たちのスポーツの活躍というのが本当に目覚ましいものがあつたなというふうに思っております。

先ほど予算をどういうふうに使っていくのかということについての御質問ですが、今まで鹿島市スポーツ合宿という事業に取り組んできました。この事業は、有名な大学の選手が鹿島に来られて合宿をされる。それを地元の若い人たち、小・中学生、高校生に見てもらって、スポーツの振興を図りたいという目的でやってこられました。一定の成果は私があつたというふうに思っております。

ただ、地元の若い人たちの育成というものを考えていかなければなりませんので、予算の枠、また新たな予算の枠を設けてというのは、議員おっしゃるようになかなか大変ですので、このスポーツ合宿というものを少し見直し、全体の予算の中で若い人たちのスポーツ振興にも取り組んでいきたいと思っておりますし、今いろんな寄附事業があつております。そういうこともこのスポーツ振興に使えないのか、そのことも含めて今後検討をしていきたいというふうに思います。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

最後に、鹿島バイパスの豪雨に伴う冠水対策に関しまして、さらに質問します。

モニター画面を御覧ください。

〔映像モニターにより質問〕

こちらは令和3年8月豪雨による鹿島バイパスの複数箇所が冠水し、一部の区間において通行止めがされたときの中村交差点付近の状況写真になります。御覧のとおり、鹿島警察署周辺が冠水しております。鹿島バイパスは鹿島地域の主要幹線道路であり、通行止めになれば市民の生活に影響が出ます。さらに、当該冠水箇所は鹿島警察署周辺であり、災害時の緊急車両が通行不可となるおそれもあるでしょう。

地元北鹿島振興協議会としては、鹿島警察署に隣接する農業用排水路が横断する本バイパスの暗渠水路が農業用排水路の水流を閉塞しオーバーフローしたこと、つまり本バイパス施工時の農業用排水路の付け替えの不備が原因によるものと推測しています。

こちらが当該箇所の状況写真になります。これが農業用水路でありまして、本バイパスを横断する水路がこちらになります。青い線、こちらが豪雨時の水位でありまして、この水量

を赤い枠の横断水路で下流側に通水することができず、手前側からオーバーフローしていることとなります。このことは、8月16日の要望書に対する農林水産課の回答書、9月20日付の公文書において、本バイパス管理者の佐賀県が原因者であるため、地元要望を鹿島市の要望として佐賀県土木事務所に要望する旨、回答されています。しかしながら、先ほどの答弁では内水浸水が原因であると説明があり、この回答書と異なる内容となっております。

また、仮に内水浸水が原因であれば、バイパスの一部の冠水にとどまらず、地域一帯が浸水、冠水したはずですが。そのため、内水浸水が原因とする先ほどの説明は理解できません。

改めて伺います。鹿島バイパスの冠水の原因は何と考えられますか、お考えください。

**○議長（角田一美君）**

橋川都市建設課長。

**○都市建設課長（橋川宜明君）**

お答えいたします。

まず、今画面に出ております農業用水路の付け替えの不備ということになりますが、まず、今回御指摘された圃場整備された農業用水路は、見た目は1本の水路ですが、農業用水が流れる部分と営農のために農業用水をためる部分に分かれています。農業用水が流れる部分を専門用語で流水断面というのですが、バイパス下の暗渠はこの流水断面を確保していると土木事務所のほうから話っております。

ただ、一般的にこのように農業用水路で水が流れる部分とためる部分の区別はつき難いので、このバイパス下に限らず、道路下の暗渠はボトルネック、日本語に訳しますと雨水排水を阻害している箇所に見られやすいという形になっております。

また、北鹿島地区におきましては、先ほど申しましたとおり、地形的に内水浸水を引き起こしやすい場所というところになっておりますので、現在、鹿島市内に下水系、農林系、土木系、合わせて15基の排水施設を整備しておりますけれども、北鹿島のほうにはそのうち5か所を配備いたしまして、北鹿島地区の浸水被害の防除には努めておりますが、やはり土地柄的に、特に低い場所に雨水がたまって道路等の冠水被害が発生しやすくなっているところになります。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

2番宮崎幸宏議員。

**○2番（宮崎幸宏君）**

北鹿島振興協議会としては、鹿島バイパス施工時の農業用排水路の付け替えの不備が主たる原因と推測していたのですが、そうではないようです。

いずれにしても、8月16日の要望書に対する農林水産課の回答と今回の答弁が異なりますので、速やかに北鹿島振興協議会に対して本バイパスの横断水路が原因でないことを、図面

等を示して技術的に分かりやすく説明をお願いいたします。

それでは、原因として考えるに、本バイパスが冠水した付近には事業所等が立地しており、以前貯水ができた水田が宅地造成されたこと、つまり宅地化による水田減が冠水に影響していないか、お伺いします。

○議長（角田一美君）

橋川都市建設課長。

○都市建設課長（橋川宜明君）

お答えいたします。

バイパス周辺の宅地開発ですが、影響はゼロではございませんが、内水浸水の要因になるほどの影響はないと推察をいたしております。

影響があった実例が西牟田排水区と高津原排水区です。下水道事業が始まりました昭和61年や西牟田雨水ポンプ場が稼働しました平成3年と比較しまして、現在は両排水区にあった農地がほとんどなくなり、農地の湛水機能が消失したと判断しまして、計画にありました西牟田雨水ポンプ場の4号ポンプの増設を行い、令和2年に稼働し始めたものです。一般的には、あれぐらい宅地化が進まないと内水浸水の原因となったとは言えないものでございます。

以上です。

○議長（角田一美君）

2番宮崎幸宏議員。

○2番（宮崎幸宏君）

ここに来て、本バイパスの冠水の原因がはっきりしないのは残念です。

例えば、今後、鹿島バイパスの沿線開発が進んだ場合、宅地造成等に伴い、下水道や排水路の都市排水の整備が必要になると思いますが、どのように思われますか、見解をお伺いします。

○議長（角田一美君）

田代環境下水道課長。

○環境下水道課長（田代 章君）

お答えをいたします。

都市開発に伴う雨水関係の対策ということでございます。

議員おっしゃるとおり、この沿線につきましては警察付近が浸水した経緯があるということではありますが、この都市開発を今のところ宅地化するというような想定で下水道計画になっていないというのが現状であります。下水道の区域というのが設定されておりまして、それに入ってくる区域外からの進入水も想定されているわけですが、宅地化を見通した、水田が宅地化されたことによる影響というのは計画的にはされておられません。

一方、高津原、あるいは西牟田辺りの宅地造成、ここにつきましては下水道区域内という

ことでありますので、宅地化されることを想定してポンプ場の設定をしているところです。それに伴いまして、令和2年でしたか、4号機のポンプを西牟田のほうに設置したところがございます。

我々としましては、実際、雨水浸入しているのが事実でございますので、中村ポンプ場に集中している雨水をどうにか分散する方法はないのかというのを検討しているところでありまして、具体的に申しますと、今現在、井手のほうに行っている、あるいは乙丸のほうにも行ってございますけれども、そこら辺を支障がない限り、他のほうに分散するように計画を進めたいというふうに思います。

具体的に申しますと、水路の整備も必要であるわけですが、農業用水路、そこら辺の管理についても御協力をお願いする場面もあるかと思いますが、農業用の排水機場の運転管理についても我々のほうで御協力をお願いしたいなというふうに思いますし、下水道を管理している水路についても再度点検いたしまして、支障を来している箇所がないか再度点検をして、極力この浸水を防ぐ対策を進めていきたいというふうに考えておるところです。

**○議長（角田一美君）**

2番宮崎幸宏議員。

**○2番（宮崎幸宏君）**

排水計画に関しましては、今のところ計画なされていないと。恐らく農業振興地域や都市計画の関係上だと思われるんですけども、鹿島バイパスの沿線開発につきましては以前の議会においても一般質問があり、今と同じように農業振興地域や都市計画の用途区域外という理由で本バイパスの沿線開発ができない、排水計画がなされていないというような答弁がされてきました。確かに、法律の制限、また制度によりできないことは理解しますが、本バイパスの沿線開発を行うことにより期待できる生活・産業・観光面の多様な効果を逃すことは、鹿島市にとって大きな損失となります。

前月11月に、白石町にて福富鹿島道路の地元説明会開催の情報がありました。有明海沿岸道路の早期実現を強く望み、取り組んでいる私としては、非常に喜ばしいことであります。これにより、有明海沿岸道路に接続される鹿島バイパスの沿線開発の環境整備がますます急務になっております。土地の利活用に関しましては、時代の動向や環境の変化に応じて変わっていくことになります。

一方、鹿島市の人口減少は加速し、少子高齢化も進んでおり、この社会問題に対応したコンパクトなまちづくり、すなわちコンパクトシティ構想も重点的な施策となってきます。鹿島市としても、鹿島市都市計画マスタープランを検証し、本バイパス沿線を活用できるよう、用途地域等を見直す時期にあると思います。できない理由で片づけるのではなく、できるように考え、実行すべきです。私は鹿島市発展のためには、鹿島バイパスの沿線開発及び周辺地域の治水対策が必要不可欠になってくると思っております。

松尾市長の公約にも鹿島バイパスの沿線開発を掲げられています。コンパクトシティ構想を含む鹿島市の将来のまちづくり、都市計画に関する松尾市長の見解をお伺いします。

○議長（角田一美君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

鹿島市のまちづくりについて、バイパス沿線の開発というのは一つの大きな要素になってくると私も考えています。

先ほどおっしゃった北鹿島地区の浸水について、以前、あの地域というのは水害の常襲地帯でした。さっき話がありましたように、当時、排水機場が整備をされました。鹿島市のまちづくりの中で水害対策を物すごく重点に置いて整備をされてきた期間があります。多分、馬場市長の頃だったと思います。それで、鹿島市の一定の水害は今まで防いできた、そういうふうに思っていますが、今回、線状降水帯など、今までになかったような雨量が鹿島市を襲って、今おっしゃったような浸水被害が出てくるようになりました。

北鹿島の場合は、どういうふうに水を持っていくのか、排水するのかというのが一つのポイントになってくると思います。中村の排水機場であったり、組方の排水機場、あるいは塩田川のほうに土井丸の排水機場があります。今、北鹿島の排水機場で少し余裕があるのは乙丸の排水機場です。あそこがまだ余裕がありますので、そのバイパス沿線の水をどうにかしてそちらのほうに導いていけないのか、今担当課のほうと少し話をしているところですので、そのことも対策の一つになるかと思えます。ただ、おっしゃったように抜本的な対策というのは総合的に考えていかなければなりませんので、今後どういうふうな対策が一番有効かというのは考えていきたいというふうに思います。

それから、あそこのバイパス沿いの開発、確かにこれから——大分、自動車関連の企業、営業所ができて、埋まりつつあります。そういう中で、あそこら辺の開発というのは今後また進められてくるといふふうに思っておりますので、やはり鹿島市の発展には開発というのも伴ってくるというふうに思います。この浸水対策と開発、両方のことをうまく調整を取りながら、あのバイパス沿線の開発というのはやっつけていかなければならないというふうに思っております。

地元からの要望もずっと長年あっておりますので、今までの状況が変わってきたということ念頭に、これからどういうふうな対策が一番有効なのか、先ほど流域治水という考え方で乙丸の排水機場の活用というのもお話ししましたので、一体的にあの地域の水害、利水対策を考えていかなければいけないというふうに思っております。

○議長（角田一美君）

2 番宮崎幸宏議員。

○2 番（宮崎幸宏君）

北鹿島地区は平たん地で、鹿島バイパス開通以後は沿線サービス店舗の立地などがあり、便利な暮らしができる地域になってきています。唯一の弱点が水害であり、これを克服することができれば、高齢化社会に適合した住居エリアになると考えています。ぜひとも北鹿島エリアの治水対策、水害対策をしっかりと対処していただくようお願いいたします。

今回、鹿島バイパスの冠水について問題提起しましたが、明確な排水対策等を見いだすことができませんでしたので、引き続き協議させてもらうこととします。

以上、少し早いですが、来年の鹿島市の発展及び鹿島市民の皆様の御多幸と御健勝を祈念して、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**○議長（角田一美君）**

以上で2番議員の質問を終わります。

ここで10分程度休憩します。午後1時50分から再開します。

午後1時39分 休憩

午後1時50分 再開

**○議長（角田一美君）**

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

次に、11番伊東茂議員。

ここで申し上げます。伊東茂議員の一般質問で議場モニター映像の使用を許可します。

**○11番（伊東 茂君）**

皆さんこんにちは。11番議員の伊東茂です。この12月議会も私で最後の一般質問となります。4日間、12人の議員が鹿島市のために、自分の思いを市民の皆さん、そして執行部に伝えられたとっております。この令和4年度も本当に残すところあと2週間ほどになりました。今週に入り、再び新型コロナウイルス感染症の陽性者が県内でも増え出してきました。長引くコロナの影響で事業所の耐力が低下している中、緊迫したウクライナ侵攻の影響から原油の高騰、円安へと、事業者のみならず、市民生活へも影響は拡大をしております。スーパーに行けば、食料品をはじめ、生活必需品の相次ぐ値上げ、光熱費の高騰など、市民生活は苦しさを増しています。

今回の一般質問は、来年度、令和5年、新年度予算編成における市民生活支援策に加え、市内の産業への支援策、工業団地造成の必要性、市内公共施設等の光熱費高騰対策を中心に質問を進めてまいります。

まず初めに、大きな1項目め、令和5年、新年度予算編成・施策等についてです。

今月、12月に入ってから「まるごと応援券」の市民の皆さんへの追加配付の執行部の判断は私も賛同をするところです。夏場から秋にかけて、軒並み食料品、調味料、生活用品の値上げのラッシュが続いています。8月下旬から使用を開始した「まるごと応援券」、配付分の回収率も10月末で80%近くと報告を受けています。市民の皆さんは家計の手助けとして応援



券を有効に利用されていると感じています。ただ、食料品、生活用品に加えて電気代、燃料費も上がり、ますます市民の家計を圧迫しています。今回の追加配付で年末年始の家計の一定の手助けはできても、来年の春以降がまた心配となります。家計への応援の継続支援を担当課は早めに検討しておく必要を感じています。担当課が考える今後の市民生活の支援策、案等をお示してください。

1項目めの質問は多岐にわたりますので、一旦ここで総括として区切って御答弁をいただいた後、引き続き新年度予算編成の施策等、そして、2項目めの中心商店街の歩道の再整備の必要性へと続けていきます。答弁のほうをよろしくお願いいたします。

**○議長（角田一美君）**

執行部の答弁を求めます。山口商工観光課長。

**○商工観光課長（山口 洋君）**

それでは、お答えをいたします。

市民全員に5千円分の商品券を発行いたします「かしまを元気に！まるごと応援券」事業につきましては、8月からの第1弾事業を実施するに当たり、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を財源に、特に18歳以下及び75歳以上の市民には、物価高騰対策といたしまして追加で5千円分の商品券を発行するなど、コロナ禍や原油、原材料等の価格高騰の影響を受けた市民生活を支援するとともに、消費喚起策の一助となったものと考えております。

今回、長期化する物価高騰の影響が市民生活を直撃する中で、国の交付金が増額、強化され、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金が創設されたことに伴いまして、12月から市民全員へ5千円分の商品券を追加発行する第2弾の「かしまを元気に！まるごと応援券」事業に取り組んでいるところでございます。

この第2弾事業では、国の交付金だけでは財源が不足していたため、ふるさと納税基金約55,000千円を事業に充当しており、第1弾事業を含めた総事業費は約360,000千円と見込んでおります。

このように、今年度実施したような規模での経済対策、市民生活支援策は、市の単独事業での実施は厳しい面もございます。しかしながら、今後の経済情勢次第では追加の経済対策や生活支援等の実施を検討する必要があると、国、県からの財政支援を含めた経済対策を注視しながら、タイミングを逸することのないように取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

**○議長（角田一美君）**

11番伊東茂議員。

**○11番（伊東 茂君）**

答弁ありがとうございました。課長がおっしゃるとおりに、市単独では厳しい、そうかも

分かりません。もちろん、1人5千円分の買物券、商品券を全市民にといたら、やっぱり相当な金額になりますから、そうかも分からないし、それと、今までいろいろ景気対策をやってきた中で、一番平等性が高いのはこの買物券なんです。飲食店のみに「家めし券」とかやってきましたね。じゃ、普通の物販の商店は使えないじゃないかとか、いろいろある中で、どこのお店でも使っていいですよというこの買物券が一番いいんじゃないかなと。これは市民の方からも喜ばれています。

ただ、どうも冒頭に言ったように、またコロナの第8波が鹿島のほうにも広がってきている心配がします。そうなってくると、年明けから3月までは今発行の「まるごと応援券」が使えますから、そこまでは延ばせるかも分からないけど、やっぱり新学期、その後の4月以降、心配になってくるんですね。

それで、私もほかの自治体でどんな経済対策をやっているかなといろいろ調べてみました。やっぱりすごいなというところがありますよ。これは市民は喜ぶやろうというのが、1つは水道料金、公共料金を2か月間限定で減免する。もう一つは、松尾征子議員の質問でも出ました。私も正直、将来的には小・中学校の給食費は無償にするべきだと思うんです。ただ、その財源がどうなのかという問題になってきます。ただ、やはりこれも考えられて、新学期から2か月だけ、この給食費を無料とする、そういうふうな自治体が出てきました。教育長が松尾征子議員の質問の答弁で、給食費を小・中学生全員に無償化をした場合、年間120,000千円ほどかかるとおっしゃいましたね。120,000千円という金額を頭に置くからそう思うんですよ。これを1か月だったら12,000千円、ふるさと納税、多分9月末で基金が9億円ほどあると思っております。一遍に使いなさいとは言いませんけど、そういうふうなときに、もちろんこれはもっと市民生活が苦しくなったときですよ。今してくださいと言っているわけじゃない。そういうときに使うべきではないかと私は思っています。私の今の提案に対して、市長、あなたが最終的には決定するんです。答弁をお願いします。

**○議長（角田一美君）**

松尾市長。

**○市長（松尾勝利君）**

給食費にも支援をということです。私も当初、給食費に対して何らかの施策を打ったほうがいいという話をしていました。やはり財源的なものも考え、今のところ物価高騰に対して、食材費が高騰している、まず、そのことに対応していこうということで第1弾を打ちました。

今おっしゃるように、給食費の無償化というのは、特に市じゃなくて町部のほうの自治体で取り組まれている例があります。先ほどおっしゃったように、限定して期限を区切って1か月、2か月というのもいいかもしれませんが、やはりそういうことを一回やれば、保護者の皆さん方は何でここで打ち切るのという話にもなってくると思います。恒久的に続けていくというのも一つの施策ですので、そういうやり方がいいのか、もう少し考えながら、例え

ば、本当に困っておられる多子世帯の方とか、所得が少ない方とか、そういう方に限定してやっていくというような方法もあろうかと思えます。そういうふうにはいろんな方策がありますので、この給食費についてはもう少し考えをしていきたいなと、まとめていきたいなというふうに思っております。

ただ、もう一つ、給食センターの建て替え、これも先々少し視野に入れていかなければなりません。給食センターの維持管理というのは市のほうの全額持ち出しです。このことも頭に置いて給食費をどうするかというのを考えていかなければいけないなというふうに思っております。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

急に市長に私が振りましたが、しっかりとした答弁をいただきました。おっしゃるとおりに、一時的にやったら、保護者の方は続けてくれよという要望は強くなるだろうと思いません。

ただ、ほかの自治体もいろいろ調べてみると、小学校6年間の中で卒業の6年のときか、もしくは1年のときとか、そういうふうなときに給食費をちょっと負担を軽減するとか、そういうふうなことをやられています。だから、いろんなことを担当課も考えてみてください。可能な限り。やっぱりそれを考えないと、最初から無理だと、120,000千円もかかるんだったら無理だということだったら何も解決しないですよ。だから、そこの辺りをお願いしておきます。

次に、鹿島市内産業への本市独自の支援策、これは農業、漁業、商業について質問をしていきます。

9月議会においても本市の基幹産業、1次産業の支援を私は訴えてきました。市長との意見交換会でも、まず、農業に関しては鳥獣対策費の拡充をお願いしたい。そして、肥料代の補助は行われているけど、農薬も価格が上がっているんですよと、これにも支援をしてくださいという要望が、私は浜地区に出ましたので、浜地区から要望が出ていました。

漁業については、先ほど松田議員からの質問に対しての答弁であったように、有明海の海況ですよ。この状況が非常におかしく、心配である。11月下旬の初摘みのノリを私持ってきてもらいました。食べてみました。色は本当にあまり変わらないぐらい、黒々とそのときはしていました。でも、持ってこられた方も言われていました。栄養塩の低下で味が落ちると。やっぱりそれが佐賀県全体で「有明一番海苔」というものには評価されなかったんじゃないかなという気がします。状況を好転させる施策は本当に喫緊の課題です。ただ、これについては松田議員からの意見であったり、要望の中で、塩田川下流のところのしゅんせつつかというか、そこの辺りがまず必要であろうということで、国へもしっかりと支援の要請を

していくというお答えを松尾市長にいただきましたから、漁業については答弁しなくていいです。

次に、商業、今度は小売業です。小売業はコロナの影響が本当にずっと尾を引いているんですね。最近の物価の高騰も重なり、ますます消費者の購買力が極度に落ちています。廃業する店舗も出てきており、活性化させる施策は必要なんです。新規出店を促す現行の改装費補助、年間2件までですかね、2口だったと思います。1口が1,000千円だったかな。でも、これだけでは新しくやろうとする人は、やっぱり最初3か月から6か月が勝負なんですね。3か月ぐらいの家賃の補助ができないかという要望も出ています。

こういうふうな支援策は国や県の補助があったほうが一番いいわけですけど、でも、やっぱり鹿島市独自の支援策を新年度の予算の中に、そんなに私がかからないと思うんですよ、今私が言った分の金額は。そこに盛り込んでいく必要があるんじゃないかなと思いますので、農業に関する事、それと、商業に関する事、この2つの答弁をお願いします。

**○議長（角田一美君）**

江島農林水産課長。

**○農林水産課長（江島裕臣君）**

お答えをいたします。

まず私のほうから、農業分野といたしまして、本市独自の対策としまして、先ほど議員からありましたように、肥料価格でありますとか燃料費高騰、これらに対する独自の支援、また、畜産関係では餌代が高騰しております。これに対する支援など、経営安定のための独自支援に取り組んできたところでございます。

現在、新年度予算の編成に着手しているところでございますけれども、農林漁業分野に対する支援といたしましては、これまで市が独自で実施してまいりました事業、例えば、新規就農者や担い手に対する支援でありますとか、トレーニングファーム生への家賃補助など、こうした独自支援策は新年度も継続して実施する方向で調整を行っております。

また、市長と語る会をはじめ、今回、多くの皆様から御要望のありましたイノシシ、有害鳥獣対策費につきましても、これを拡充する方向で現在調整いたしておるところでございます。

また、これ以外、物価高騰対策でありますとかコロナ関連、ノリの不作、また、議員おっしゃいましたように、農薬のほうも価格が上がるというような状況もありまして、こうした緊急を要するものでありますとか、状況が不透明で流動的なもの、これに対する支援につきましても、国や県も臨時的に打ち出されますので、市としましてもこれまでの考え方といたしますか、国や県だけでは不足する部分に市独自の支援策、これを機を逸することなく、今後も打ち出してまいりたいと思っております。

新年度を待たずに国、県から何らかの追加対策が打ち出されることも想定されますので、

こうした情報収集にも努めて、臨機応変に対応してまいりたいと考えております。

○議長（角田一美君）

山口商工観光課長。

○商工観光課長（山口 洋君）

それでは、商工観光課からは商業の部分についてお答えをいたしたいと思います。

市内経済の活性化策の一つといたしまして、事業者の新陳代謝の加速化を図ることも重要と考えております。現在取り組んでおりますかしまビジネスサポートセンターを核といたしました事業者への伴走型個別支援においても、地場事業者の経営支援や操業、事業承継支援とともに、課題としているものの一つに廃業サポートというものがございます。この廃業サポートというのが、本来は事業を続けていただくことが望ましいことなんですけれども、健康上の理由でありますとか跡継ぎの問題、様々な理由で事業を畳まれる事業者に対しまして、廃業後の生活設計などのサポート、従業員の再就職支援、取引先へのサポートなど、廃業後のスムーズな第2の人生設計に向けた支援のことで、今後、相談件数の増加も予想されるため、来年度以降も多種多様な事業者の経営課題に対応するビジネスサポートセンターの体制整備に引き続き取り組んでいきたいと考えております。

また一方で、たとえ一つの事業者であっても廃業に伴う商圈の喪失が地域経済に与える影響は少なくなく、廃業サポートと表裏一体で新規出店者や創業者への支援が重要だと考えております。

議員おっしゃるとおり、これまでも中心商店街や門前商店街、また、肥前浜宿における新規出店者への改装費補助などの支援を実施してまいりましたが、より事業効果を高め、地域経済の活性化に資するような施策について、国、県の支援策を注視しながら、家賃補助も含め、どのような支援ができるのか、本市ならではの独自の取組についても研究をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

課長の答弁じゃ何か寂しいですよ、廃業サポートというのもね。でも、高齢化は進んでおります。それもやっぱりあるでしょう。

あなたは商工観光課の課長として、今年からやったですかね。商店街を見て、どう思いますか。あれでいいと思いますか。ずっと店が減っていく。中心である街角のところもお店を辞められた。また新たにお店を出すとなったら、相当なエネルギーが必要なんですよ。だから、何とか食い止めるとか、そういうふうなものもやっぱり考えないといけない。

今、結局、市内で中心商店街、門前商店街、浜の酒蔵通りの中で何か出店をしたいという

方には、改装費として1,000千円を年間2口まで募集しますと。でも、これは広報が全くなっていない。もっと掘り起こさないと。やりたい人はいるんですよ。コロナの中で、この一、二年はやっぱりそういう方はあんまり聞きませんでした。でも、人数の制限等を国が廃止したというか、なくなって、また新たにそういうふうなお話は出てきているんですよ。やってみたいと、若い方がね。だから、かしまビジネスサポートセンターは商工会議所の中にありますよね。それと一緒に、それを受け付けというか、相談窓口をつくってくれんですか。新規の新店。以前は銀行であったり郵便局とかの雑誌とかを挟めてあるところにそういうのを入れてあったんですよ、募集を。今全くそういうふうなのがない。だから、もっと真剣にならないと、商店街は全滅しますよ。中心商店街が全滅したら、10年ぐらい前に私は一般質問で言いましたけど、様々な文化的な行事、ああいうふうな秋祭りや何やら、全く成り立たなくなりますよ。回ることもできない。誰もいない。1次産業の農業、漁業も大事です。しかし、それと同じぐらい商業も大事なんですよ。そこの辺りをしっかりとお願いしたいと思います。答弁はいいです。そういうふうな気持ちで頑張ってください。お願いします。

それでは次に、工業団地の造成の実施についてです。

9月議会で新人議員の笠継議員から質問が上がっておりました。工業団地造成について。そのときの答弁で私がメモをしていたのは、造成には用地取得から団地の設計、造成完成まで3年から6年が必要であり、15億円から20億円の費用を要するために、現段階で本市にとっては財政状況から容易ではないということでした。そしてまた市長からは、オーダーメイドで造成をするのか、リースでやるのか、ここの辺りの判断が難しいというような答弁が、本当はもっと長い答弁でしたけど、そんな感じでした。

でも、市民の皆さんは鹿島市が今、先ほどからあっているように、9月23日に特急が減便になったとか、何か将来的にどうなのかなというときに、やっぱりこういうふうな工業団地とかをつくるようになったら、ああ、鹿島はやる気があるんだと、そういうふうな明るい展望が見えてくるんですね。この鹿島市に県を通じてどこかの企業から企業進出のオファーがあったとして、それからオーダーメイドの造成工事では遅いですよ。有明海沿岸道路が鹿島から工事を始めていきますよという件でも表明、その延伸を見据えて早期に着工すべきですよ。もちろん、これは金はかかりますよ。駅前開発もあるでしょう。しかし、こういうふうなまちづくりは止まったら駄目ですよ。前に前に進めない。これについて、まずは担当課がどういうふうに考えているのか、答弁をいただきたいと思います。

○議長（角田一美君）

山口商工観光課長。

○商工観光課長（山口 洋君）

お答えをいたします。

新規工業団地の整備につきましては、9月議会でも言いましたとおり、候補地3か所の優

先順位づけまではしましたよということでお答えをいたしております。その後、内部で検討いたしまして、事業化に向けた実現可能性、また、整備スケジュール等の策定につきまして、現在着手をしたところでございます。整備着手に当たりましては、従来から企業の引き合い状況と本市投資余力のバランスの見極めが重要ということで、ここは変わりません。長期化する感染症への影響、また、原油、原材料の高騰、円安など、今後の企業の設備投資動向の推移、また、本市の大型事業との関係、その進捗具合による投資余力の見極めを慎重に進めているところでございます。

議員がおっしゃられるように、企業誘致の受皿となりすます工業団地や、また空き物件、テナント等がなければ企業誘致という施策そのものに取り組むことはできませんが、工業団地整備後に長期間塩漬けになることがないように、工業団地整備に着手するに当たっては、整備以前から企業誘致の取組をより一層強化する必要があると考えております。

本市単独での誘致活動には限界があるため、整備計画の策定段階から佐賀県への相談、協議を行い、県内工業団地の整備状況、大規模用地を必要とする製造系企業の引き合い状況など、県の御指導をいただきながら、まずは一定の方向性を示すべく、現在は団地の規模や整備スケジュール、本市財政投資力のシミュレーションなど、整備計画の策定作業を進めているところでございます。

以上です。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

山口課長が言うように、現状はそうかも分らんけど、そういう答弁をしていたらみんなどう思いますか。つくった後の塩漬けが心配、それを考えていたら何もできないですよ。それこそ、そうならないために市長はトップセールスをするべきなんですよ。ずっと東京等にもいろんな要望活動に行かれていますでしょう。その中で少しずつでもパイプはできているはずなんですよ。知り合ったところの首長さん方とお話をする中で、どういうふうな企業からそこはオファーが来ているのかとか、様々な話をやるべきだと思います。

今、このコロナで、私がやっている衣料品とか、そういうふうな縫製の会社、人件費を安くするために大手メーカーは海外に工場を造ってやっていました。しかし、今、これは海外で作らせても、いつこっちに送ってくるかが分からなくなってきた。去年、おととしと、私のところでいえば新学期に間に合わないという商品まで出てくる。それじゃいけないということで、国内に工場をまた移し替えるという話もいっぱいあります。鹿島は以前、そういうふうな縫製の会社がいっぱいありましたよね。鹿島縫製とか、そういうふうなのが。市長は県外に行かれたときに、常にアンテナを張っていただいて、鹿島をアピールしていただき、そして誘致活動に努めてもらいたいと思うんですよ。どうでしょうか。

○議長（角田一美君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

工業団地のことについて、先ほど課長のほうから答弁がありました。私たち庁内でも今まで候補地の選定等やってきた経緯がありまして、議員おっしゃったように、これからどうするかというのが一つの課題になっています。

一つ心配したのは、財政的にどうなのかというのは、確かに鹿島市の今の財政調整基金などの基金の状況と、これからのそういうふうないろんな指数がどうなっていくのかというのもひとつ見極めなければなりません。議員おっしゃったように、やはり工業団地というのは鹿島市の今後の活性化の一つの要因になるというふうに思っております。

今、課長から答弁をいたしました。前向きに捉えていただきたいと思います。検討は今しております。先ほどおっしゃったように、期間的には、今からいろんな段階を経ますと3年とか5年の準備期間が要りますので、それも踏まえて、財政状況も考えながら、前向きな考えで今おるといのは分かっていたと思います。

それと一つ、東京に行ったりとかしたときに、企業誘致をいろんなところに働きかけると言われましたので、それはぜひ私としても頑張ってお手伝いしたいと思います。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

もっと松尾市長、目立っていただけていいですよ。もっと行動を広げて頑張ってください。

工業団地の候補地、3か所に絞っているんですけど、もしこれを実行するとなったときに、私も大分調べました。国の交付金として、昔言っていたまちづくり交付金、今は都市再生整備計画事業、また地域自主戦略交付金、もう一つ地域活力基盤創造交付金、これが全て国土交通省からメニューとして紹介をされています。こういうふうなメニューについて、県とかと一緒に協賛とかやっていますか。課長どうでしょうか。

○議長（角田一美君）

山口商工観光課長。

○商工観光課長（山口 洋君）

お答えをいたします。

工業団地の整備につきましては、その開発規模にもよりますが、数億円から数十億円といった大規模な事業費がかかります。当然財政が大きくなりますので、その支援メニューについては検討をしているところです。

工業団地整備にかかわらず、いろんな事業をするに当たって国や県の支援メニュー、そういったものを情報収集しておりますけれども、この整備につきましても、先日、県のほうに



お伺いをして、どういった支援メニューがあるのかということで今現在御相談をしているところでございます。

以上です。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

お願いします。前市長の樋口市長が置き土産で言われた言葉の中にあっただと思います。国のメニュー、この中で鹿島にとって一番有利なメニューを探してくる、これもあなたたち執行部の仕事だろうと思いますから、お願いします。

それでは次に、市内の小・中学校、そして指定管理施設の光熱費増加への対策について質問をいたします。

先日の議案審議において、鹿島市が管理する小・中学校、指定管理施設の光熱費、電気代ですけど、これが高騰のため、追加補正というふうな形で予算が上程されました。定例会前の委員協議会で教育総務課から、九電との割引契約変更の通知を受け、電気料金の単価が上がったと説明を受けました。原油の高騰、そして、火力発電の燃料費の高騰など、様々な要因が重なり、九電さんの電気料金の単価上昇となったとっております。そういうことで、年当初考えていた各小学校、中学校施設等の電気料金では難しくなったということで追加補正になったと私なりに判断をしております。

ただ、今後も電気料金はしばらく高い水準で推移すると予想というか、そういうふうに言われていますね。鹿島市としてもやっぱりただ黙っておくんじゃなくて、何かしらの対策は考えんといかんと思いますよ。ただ、やみくもに節電の推奨だけでは無理があります。これから寒さが増す中、小・中学校、教室でのエアコンでの暖房は必要でしょう。小学校、中学校、指定管理施設だけにとどまらず、この庁舎、全庁的に電気料金高騰対策は必要だろうと思いますよ。総務課の対策に対する考えを示してください。

○議長（角田一美君）

白仁田総務課長。

○総務課長（白仁田和哉君）

現在の市役所全体の電気代削減や節電についての取組をまずお答えさせていただきます。

まず、電力契約についてですが、先ほど議員もおっしゃったとおり、電力契約の見直しの検討を令和元年度に行い、令和2年度から九州電力と大規模契約、割引特約契約を県内でもいち早く締結し、現在、庁舎及び新世紀センター、小・中学校、給食センター及びポンプ場の一部など、20施設が割引特約の対象となっております。

次に、節電については、鹿島市役所行動計画を作成し、昼休み中の消灯、パソコンのパワーオフの徹底、各施設ごとの電気使用量の実績の点検、空調設備の使用の工夫等も行って

おります。また、5月から10月までのクールビズ、12月から3月までのウオームビズに取り組み、設定温度を調整することで消費電力の削減にも努めております。

以上のように、電気代の削減や節電に取り組んでいる中での今回の電気料金の高騰ですので、あと対策としては、照明のLED化や太陽光発電の導入など、消費電力を削減する方法が考えられます。しかし、多額の初期投資が必要となりますので、国の補助金などの状況や電力会社の動向を見ながら、施設や設備の改修時期に合わせ、適切な方法がないか、それぞれ検討していく必要があると考えております。

以上でございます。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

ありがとうございます。白仁田課長がおっしゃったのは、ある程度は私もそういうふうなことかなとか思いながら聞いておりました。やっぱりパソコンもつけっ放しとなったら電気を食いますよね。ここの辺りは必要かなと。もちろん空調は今全庁的に温度設定が、寒いからといって26度、27度とか上げられないようになっていきますから、そこの辺りはそうだろうと思います。

一つの例として、指定管理施設で使えるかなと思って、ちょっと紹介をさせてください。

これは浜公民館の主事が、電気料金が高いのに、これはどうしたいのかなと一生懸命考えた末に行ったことです。去年、隣接する浜の臥竜ヶ岡体育館の照明を水銀灯からLEDに替えても電気料金が安くならない。そこで、主任主事は毎日、1日の電気使用量の記録を始めました。夜間も各部屋の電気を全て消しているのにメーターは回っている。何が一番電気を食うというか、電気を使っているのか。ここでたどり着いたのが非常灯です。ここにもこういうふうに非常灯、これには2本から3本の蛍光管が入っています。これを公民館の入り口以外、全ての蛍光管を外しました。これは消防法にも抵触しないということを確認した上です。その代わりに、非常口というちゃんとした緑のシールを各箇所には貼っています。それは体育館であって会議室のところ、2階とか、それが全部で7か所ありました。そういうふうにまずしました。そして次に、2階とか、様々な会議室の照明を全てLEDに付け替えました。これはコロナで事業費に余裕があり、委託事業の修繕費を活用しています。さらに、先ほど総務課長から話があったように、独自に九電との契約を見直す、これによって毎月10千円の電気料が軽減されました。これは私たち振興会の理事、聞いていてびっくりしたんですよ。主事がここまでやってくれているんだなと。市役所内でもいろいろ一生懸命考えていただいている課長であり部長はいっぱいいらっしゃると思いますけど、私はこの主事には頭が下がるなという気がしました。もしほかの公民館とか様々な指定管理施設でこれが使えるようだったら、ぜひともそういうふうなことをやっていただければなと思うんですが、担当

課長どうでしょうか。――すみません。こっちのほうですね、指定管理のほうですから。こちらでお願いします。

○議長（角田一美君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えいたします。

浜公民館の事例につきましては、私たちもお聞きをしておりました。議員がおっしゃったとおり、水銀灯でしたので、水銀灯が壊れると部品の調達ができなくなるということで、LEDに替えるしかないということで、全てLEDに交換をしたんですが、なかなかそれだけでは節電につながらなかったということで、誘導灯の取替えとか電気料の見直しで月10千円の節電ができたということはお聞きしております。

ほかの公民館でもそういうことができないかということで、体育館とか調べていたんですが、市民体育館に大きい誘導灯がありますので、そこら辺の見直しはしたいと思います。

LED化なんですけれども、電気の使用頻度の高い体育館は節電効果が出やすいです。例えば、市民体育館でしたら、交換前と後を比べると年間400千円ぐらい違います。ただ、使用頻度が低い臥竜ヶ岡体育館とか七浦の体育館とか、そこら辺はなかなか効果が出にくいような状況です。とはいえ、水銀灯は交換するしかありませんので、順次計画に沿ってLED化を進めていきたいと考えております。あと、エイブルとか蟻尾山についても同様に計画的に行っていきたいと思います。

以上です。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

順次そういうふうに行けるところはずっとやっていっていただいて、電気代を少しでも負担を減らすようにやってください。お願いをいたします。

それでは次に、大きな2番目の中心商店街の歩道の再整備の必要性、そのまず最初として、スカイロード街路整備事業から25年経過する歩道の損傷についてです。

今ここに画像を出しました。

〔映像モニターにより質問〕

1998年、平成10年8月に肥前鹿島駅前交差点から続くスカイロード商店街は、佐賀県による街路整備事業として完成をしました。8年後の平成18年にさくら通りの街路整備が完成し、買物のお客さんが安全に買物を楽しめる、れんが調の広い歩道が整備されました。

しかし、約25年近く経過したこのスカイロード商店街の歩道は、れんががひび割れ、盛り

上がったれんがにつかえ、転び、けがをしたと苦情が寄せられています。私のところにです。

高齢化社会が進み、雨上がりの後は足元が滑る危険が指摘されています。これとか見ると、上にコケみたいな黒っぽいのが見えてくるんですね。これが雨が降った後は滑るんですよ。特に女性の方、サンダルとか履いていると非常にこれが危ない。先日もこの通りで——近くに病院がありますね。病院から出てこられた高齢者がバス停の前で転ばれ、頭を打たれ、ちょうど居合わせた私と数人で大急ぎで車椅子を病院にお願いし、看護師さんに来ていただき、そのまま治療をお願いしました。

先ほど宮崎議員から質問も出ていました。これから着手をしていく肥前鹿島駅周辺整備構想（まちなか整備）による安全に回遊ができる歩道への再度全面改修を——これはもともと県の街路事業です。県へ要望を加えてほしいと考えていますが、担当課の見解をお願いいたします。

○議長（角田一美君）

橋川都市建設課長。

○都市建設課長（橋川宜明君）

回答いたします。

スカイロードがあるのは県道鹿島～嬉野線ですが、市道への移管が予定されています。市道に移管する路線は、その前に舗装補修などを行ってから移管される約束になっております。このため、昨年度、令和3年度に杵藤土木事務所と移管予定の県道の傷み具合を確認しました。議員御指摘の歩道の損傷も確認し、補修工事が予定されているところです。ただ、今年度は予算の確保ができなくて補修工事ができなかつたと聞いております。議員の御指摘を受けまして、スカイロードの歩道を改めて確認しましたところ、二十数か所の損傷地点も確認いたしましたので、補修工事を行ってもらえるよう、土木事務所に要望していきたいと考えていたところであります。

ただ、駅周辺整備に合わせた歩道の全面改修ということになりましたら、これまでの県との協議内容から逸脱するところではありますが、議員御指摘のとおり、回遊性と安全性の確保をする必要がありますので、県のほうと改めて協議をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

ありがとうございます。私も市道に格落ちというか、移管されていくというのは薄々分かってはいましたので、そういうふうになったら、県は全てちゃんとした形で市に渡すというのが条件ですからね。だから、そこの辺りも考えて質問をしていますけど、それは土木事務所のほうにしっかりと行ってください。

それと、このれんがは、ちゃんとしっかりと止めていないんですよ。ぐらぐらするんですよ。ここがちょっと問題かなと思いますので、そこの辺りも——これは全部くっつけてしまうかどうかしたほうがいいんじゃないかなと思いますけどね。そこの辺りは土木事務所に相談をしてみてください。よろしくをお願いします。

それとまた、今度はこれです。

〔映像モニターにより質問〕

街路樹、この街路樹がですね——ここの通りには飲食店がありますね。それから、衣料品店がありますね。ここからまた苦情が来ているんですよ。この落ち葉がどこにたまるか。側溝の蓋にたまるんですよ。この後、雨が降ったとすると水はけがまた悪くなる。こういうふうですね、ここにあるように。これは、このスカイロードだけじゃなくて、西牟田～御神松線の交差点のほうから西牟田、ピオのほうに向かっていくところのイチョウの木もそうですよね。私はいつも言われます。ボランティア袋をもらっても自分でせんばらんと。相当な量のイチョウの葉っぱであつたり、これはカエデなのか何なのか、ちゃんとした名前は分かりませんが、それが物すごく負担に感じると、毎朝。だから、ここの辺りを何とかしてもらおうように市に言ってもらえませんかと飲食店の方から要望が直接ありました。そこの辺り、すぐにこの街路樹を何か違うのに替えるというのはちょっと難しいかも分からないけど、もうちょっとために、満遍なくボランティア袋とかをお渡しして、そういうふうなのをしていただければなど。やっぱりまちはきれいにせんといかんですよ。だから、そこの辺りをお願いしたいと思うんですけど、これは担当は都市建設課ですかね、お願いします。

○議長（角田一美君）

橋川都市建設課長。

○都市建設課長（橋川宜明君）

お答えいたします。

街路樹は、景観上の観点と防災上の観点から落葉樹、また広葉樹が選ばれることが多いです。このため、この時期は落ち葉が発生いたします。この落ち葉は県や市の道路管理者が管理すべきところではありますが、先ほど議員からありましたとおり、周辺の皆様の御協力をいただきながら管理しているところでございます。この場を借りまして落ち葉清掃に御協力いただいている皆様に感謝を申し上げます。

これからも周辺住民の皆様の御協力をいただきながら、道路管理者の責務として必要な管理、今回は落ち葉清掃になりますが、こちらのほうは行っていきますし、特に今は多いよとかいう形で御連絡いただければ、県も市もそのような落ち葉の清掃の回数を増やすなどの対策は取らせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

ありがとうございます。やっぱり商店とか飲食店の方は、自分の店の前にそういうのがあったら嫌ですよ。お客さんが気持ちよく入って来てもらうためにはということで掃除をされるんですよ。だから、そういうふうな大変さもありますけど、先ほど担当課の課長がおっしゃったように、できるだけいろいろ手助けをしてやってください。お願いします。

最後の質問に入ります。

肥前鹿島駅周辺の整備構想（まちなか整備）による歩行ネットワークの形成、先ほど宮崎議員からも質問等がございました。駅前のロータリーであったり新駅舎、これは県との協議を進めながらだから、もうちょっと時間がかかるかなという気もしております。

それよりも、やっぱり今度は、駅に降りて、そして、駅を出てまちをぱっと見たとき、そこで大体第一印象が決まりますね。私たちも視察に行って、駅から降りて、ああと思うときとおおっと思うときがありますよ。これはやっぱり必要ですよ。だから、遅いと言われようが何だろうが、しっかりとやって、鹿島再発見じゃないけど、そういうふうにやってもらわんといかんと思います。

〔映像モニターにより質問〕

そのためにはやっぱり、これが駅のほうから見たそのスカイロードのほうですけど、今度の整備のほうを見ると、西のほうに駐輪場をつくる、南のほう、今までの駐車場とかがあって、どっちかという西と南のほうに向かって、もうちょっと歩行ネットワークをつくっていかんといかんのじゃないかなと思っています。まず、市長と語る会で鹿島のほうから言われていた答弁をされたときに、ちょっと聞いていて思ったのが、案内看板がよくないというのが出ていましたね。私もずっと思っているんですよ。鹿島はサインが下手、町なかのサインが。もうちょっと考えんといかんですよ。

まず、さっきも言ったように、駅を降りたら、おおっと思うような、ちょっとこれも金額は張るかも分からんけど、大型のLEDビジョンをつけていただいて、まちのPR等も流していただきたい。その時期に肥前鹿島駅を降りたら、12月だったらお火たきがやっているとか、1月は浜でふな市があるとか、3月は酒蔵ツーリズムだとか、そういうふうなのを映像を交えたLEDの大型のビジョンが必要じゃないかなと思っています。そして、歩道にはスタンドサインというのがあるんですよ。今度調べてみてください。スタンド型ですね。そういうふうなのやLEDのサインなど、それこそ調べられたら分かります。スタイリッシュなデザイン、たくさんあります。やっぱり新しくまちのイメージを変えようと思ったら、そのくらいのことをやっていかんといかんとは私は思っています。

そして、まちの中に誘導をしていく歩行のネットワーク、動線、ここの辺りもししっかりと考えていく。これが先ほどの宮崎議員への答弁の中で、駅舎であったり、そういうふうなの

があと五、六年はかかるのかなど。段階的には整備されていくんだらうけどというお話でしたけど、やっぱりそれに合わせて変えていく必要があると思いますよ。担当課が考える歩行ネットワークの形成、これについてどういうふうな考えを持っていらっしゃるのか、お答えください。

○議長（角田一美君）

橋川都市建設課長。

○都市建設課長（橋川宜明君）

お答えします。

肥前鹿島駅周辺整備事業で県と市が使おうと思っている補助事業については、歩きたくなるまちづくりというのがテーマに入ってきます。このため、駅前から中心商店街へ回遊を促す効果的なサインを活用し、駅前から見るまちのイメージを高める方策は、御指摘のとおり県と一緒に考えていきたいと思っております。

その上で、担当課が考える歩行ネットワークの形成について回答いたします。

鹿島市のような地方都市で歩行ネットワークの成立を阻むのは、移動手段を過度に自家用車に依存しているという実態でございます。先ほどの宮崎議員から一般質問の中で指摘がありました、鹿島市と同規模の地方都市で駅周辺整備事業が終わっても人が閑散としているという御指摘は、これも一つの要因であるかと思っております。

このような中、国が言う歩きたくなるまちづくりの中で公共交通機関の利活用は否定されておらず、むしろ推奨されております。

しかし、鹿島市の公共交通機関にも様々な問題がございます。ただ、そのような中でも佐賀県は過度な自家用車依存社会からの脱却を提唱していますので、県と協働して取り組む駅周辺整備事業の中で取り組んでいきたいと考えております。このため、ラムサール条約推進室が取り組んでいるグリーンスローモビリティの実証調査に都市建設課も県も関与しているのはその一環でございます。

また、伊東議員の質問の趣旨からは若干ずれるかもしれませんが、先日の福井議員の一般質問にありました臼杵市の事例、公共交通機関の乗換拠点を乗客同士のコミュニケーションの場としている事例は、駅周辺整備に取り入れさせていただきたいというふうに思ったところです。

その上で、市内各地から公共交通機関を使って駅周辺に集まってきた人たちを、歩いて、または新しい移動手段を使って中心商店街に向かわせる整備や仕掛けが必要と考えております。そして、これが中心商店街の活性化につながってくれればと考えております。

以上です。

○議長（角田一美君）

11番伊東茂議員。

○11番（伊東 茂君）

ありがとうございます。課長がおっしゃるとおりに、やっぱり回遊性を持たせるために、田舎ではどうしても自家用車で回ってしまうというところがあるので、歩行で歩いていくという、それがちょっと難しいところがありますね。

ただ、県が年明けぐらいからバスの無料というのを始めるのでしたっけ。だから、鹿島市も第1日曜とか、鹿島市内はバスが全部無料とか、平日でもいいんですけど、園児たちに乗ってもらうとか、様々なそういうふうなのでまちを歩く、そういう仕掛けは必要かなと思いますので、またさらにいろいろ考えてみてください。

今日は新年度予算に向けて予算編成、お願いをしたいこと、それと、中心商店街のことをお話をしました。

最後になります。1つ御紹介をさせてください。

先週の12月10日の佐賀新聞に、知事選へ向けて、市内菓子店の店主さんの記事が掲載されていました。本人さんの了解を得ましたので、全文を御紹介させていただきます。

「景気の低迷など厳しかった中、新型コロナウイルス禍と物価高が追い打ちをかけている。2代目店主として菓子店を営んでいるが、小麦粉や油脂関係も数カ月置きに値上げされ、かつてない厳しさを感じている。「ピンチをチャンスに」という言葉は正論。ただ、能力があつて頑張れる人、乗り越えられる人はごく一部で、行動に移せない人が大半。ピンチの連続で感覚がまひし、立ち向かう気力がなくなることもあると思う。そうした人たちを温かく見守ることや、前向きになれるような助言など、多面的なサポートや施策を期待したい。」という文面でした。

私はこれを読んで、この方はよく知っていますが、この文面、内容は、今の鹿島市が置かれている現状を書かれていますね。市の将来や将来の不安や生活の厳しさを、市民全員の代弁をされています。

松尾市長が今回の議会の一般質問で答弁をされる中、感じたこと、あなたの政治スタンスであるんでしょう。市民の皆さんから、子供や若い世代、働き世代、高齢者など、幅広い人たちの意見を聞き、政策や施策に取り組むという市政、これを本当に市民の皆さんは応援していると思います。まだまだ厳しい、多分、年明けでも厳しさは続いていくでしょうけど、やっぱり希望を持って私たち議員も市民の皆さんも日々生活をしています。それに向けて市内でしっかりとまたこれからも会議を重ねていただき、みんなが納得する、そして、ああ、新しいことをやってくれた、ありがとうというような新年度計画と予算案をつくっていただくよう要望しまして、私の今回の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（角田一美君）

以上で11番議員の質問を終わります。



本日の日程はこれにて終了いたします。

17日から19日までの3日間は休会とし、次の会議は20日午前10時から開き、付託議案の委員会報告、議案審議を行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

**午後 3 時 3 分 散会**